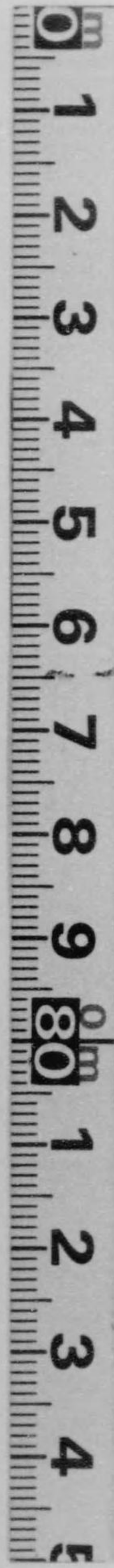


384
193



始



384-193



日本沿岸遊覽案内

大正
9. 5. 25
内交

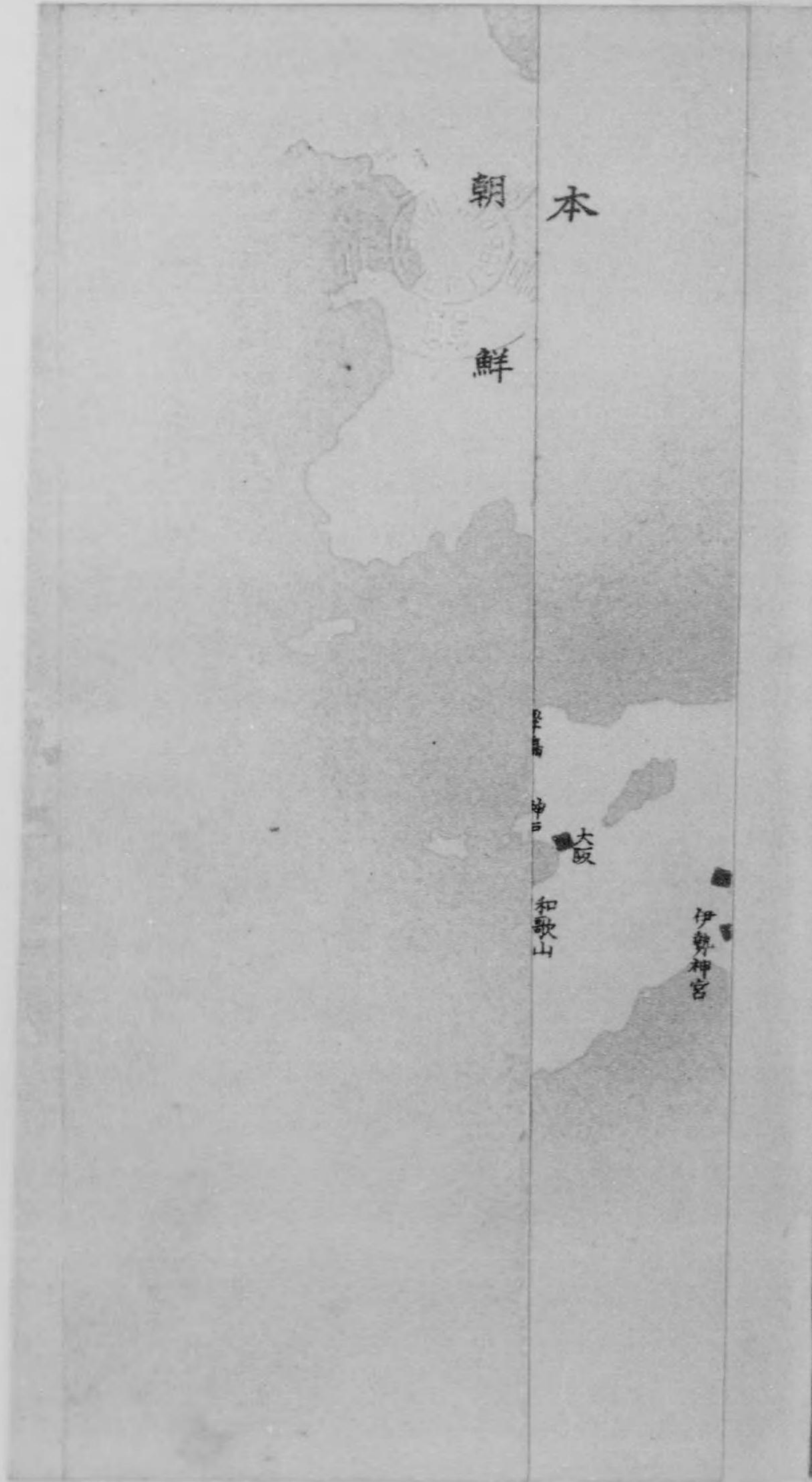
はしがき

諸氏が各地を遊覽して土地の風光を賞し異りたる人情風俗に接し史蹟を探り英傑偉人の遺風を偲ぶは頗る興味ある事なり然れども其地理を知らざる爲唯漫然と見物し何等の印象も残さざること多し余頗る之を遺憾とし爾來各都市を遊覽する毎に或は案内記を繙き或は古老の口碑を尋ね大要を摘記して茲に一小冊子を編し以て諸氏が遊覽の便に供せんとす先づ之に依りて其土地に對する概念を得ば短時間と雖も能く其目的を達するを得ん

本書素より文辭拙劣内容統一を缺き誤謬杜撰の點なきを保し
難し是れ編者の淺見不文の致す所諸氏幸に之を諒とし叱正を
賜はば幸甚

大正九年の春

編者しるす





日

道海北

海

本

室蘭

函館

大湊

青森

太

本

井葉

美保関

天橋立

神戶

州

德山

廣島

宇佐

別府

九

大分

佐伯

國四

高松

明石

和歌山

和歌浦

津

伊勢神宮

清水

鎌倉

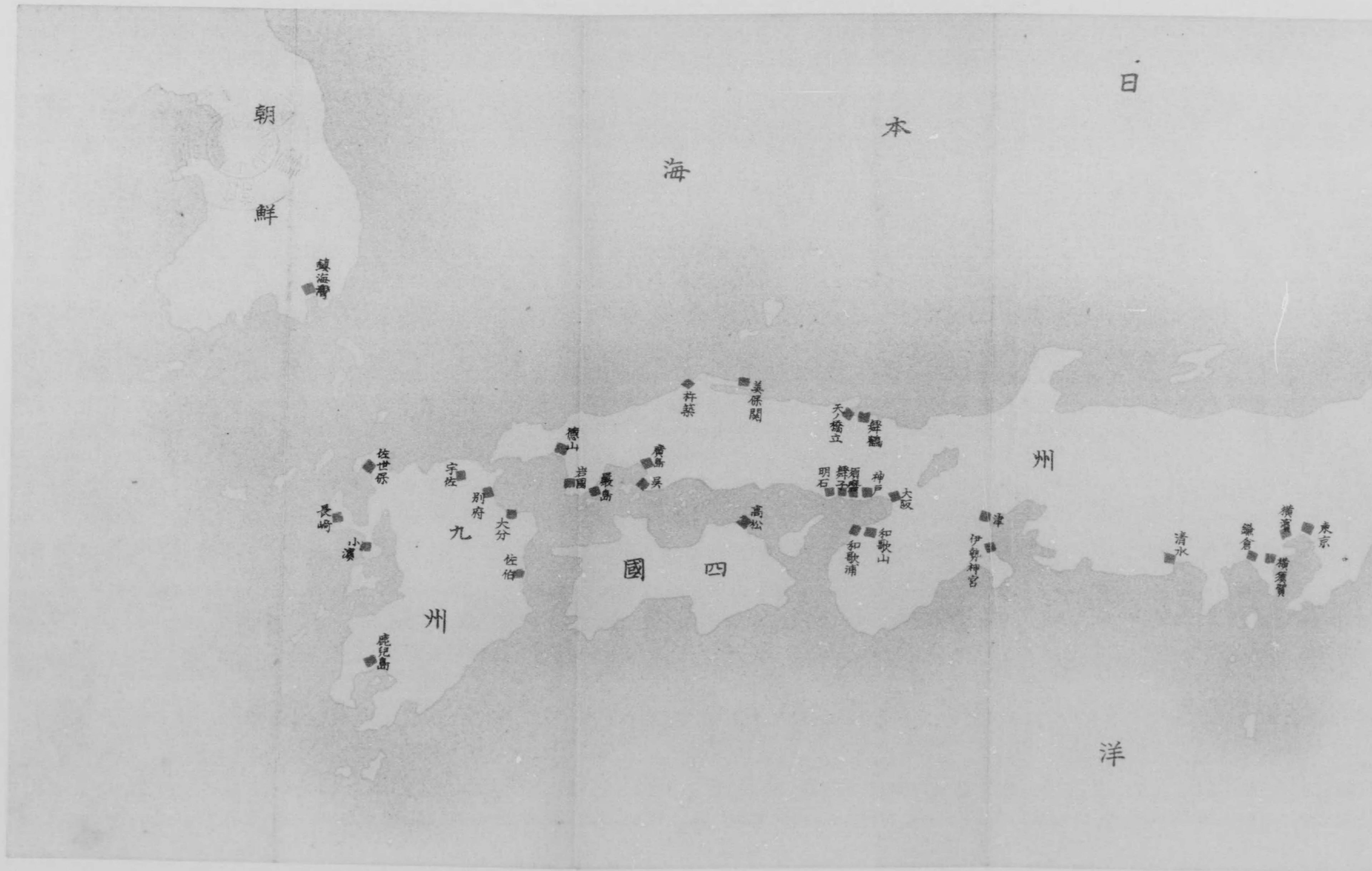
東京

鎌倉

平

洋

州



日

本

海

朝

鮮

鎮海

杵築

美保關

天橋立

舞鶴

徳山

岩國

嚴島

廣島

吳

明石

神戶

大阪

州

佐世保

宇佐

別府

大分

佐伯

長崎

小湊

國

四

高松

和歌浦

和歌山

津

伊勢神宮

清水

鎌倉

横濱

横須賀

東京

州

鹿兒島

洋

日本沿岸遊覽案内目次

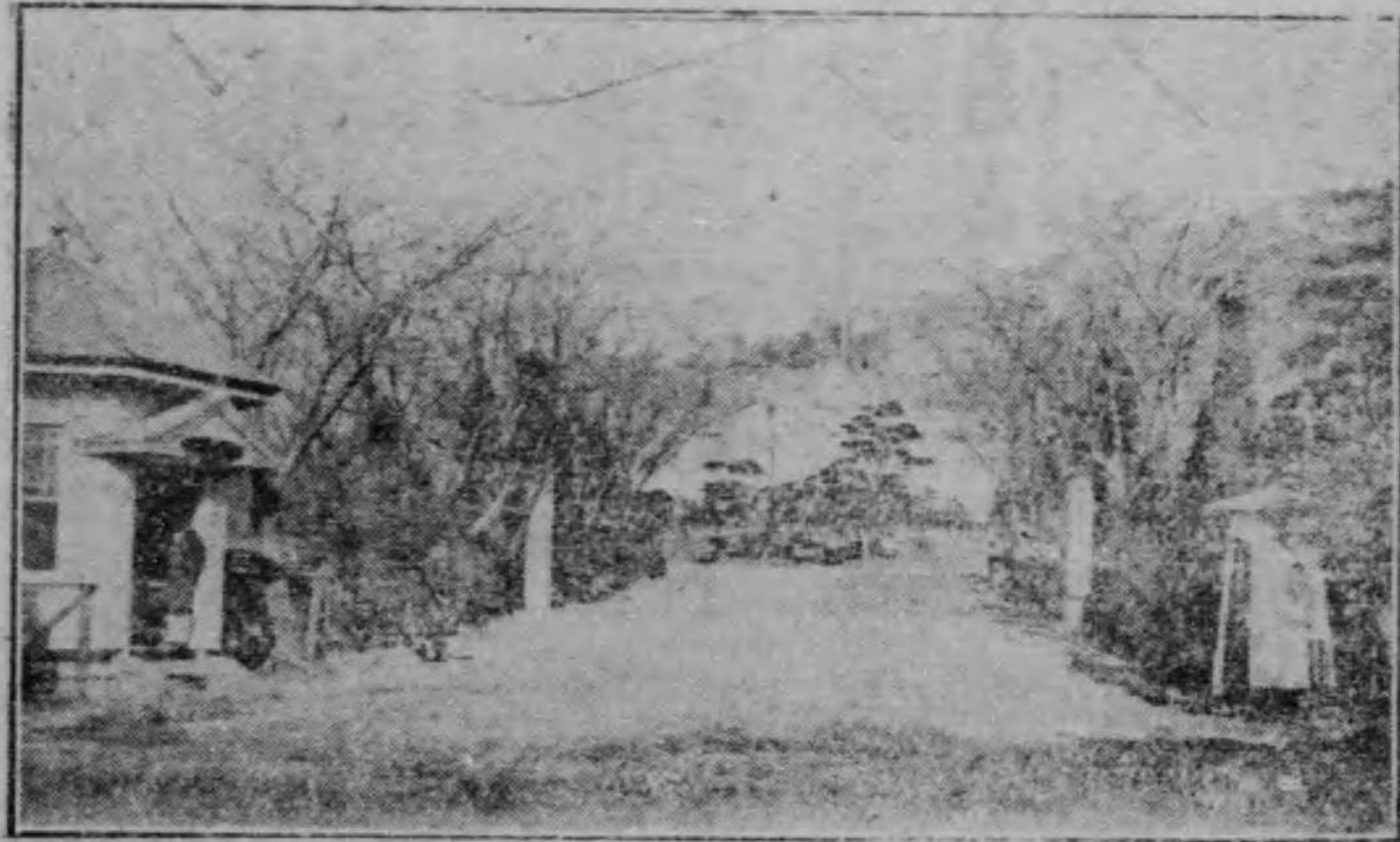
横須賀及附近	一頁
鎌倉	五
横濱	八
東京	一〇
清水港及附近	一七
津	一八
伊勢神宮及附近	二〇
和歌の浦及和歌山	二三
大阪	二五
神戸及附近	二九
吳及香戸	三四
廣島	三八
嚴島	四〇
岩國	四三
高松	四六

別府温泉	四七
宇佐八幡宮	五一
大分	五二
佐伯	五四
徳山	五五
鹿兒島	五六
小濱温泉	六一
長崎	六二
佐世保	六四
鎮海湾	六六
杵築	六七
美保の關	六九
舞鶴	七一
天の橋立	七三
青森及大港	七五
函館	七六
室蘭	七七

日本沿岸遊覽案内

横須賀及附近

横須賀は東京灣と相模灣との中間に突出せる三浦半島の東岸に在り慶應元年徳川幕府の造船所を置きし以前は漁家僅に三十戸を有する僻村なりしに明治十九年海軍鎮守府を移してより長足の進歩をなし海軍工廠、機關學校、砲術學校、水雷學校等の大建築物を以て市を飾り今や人口八萬餘の大都會となれり市内最も繁華の所は元町、大瀧町にして大瀧町には横濱及東京靈岸島に航する汽船發着所あり若松町の東端海中に突出せる丘陵は米の濱の勝地にして日蓮宗の龍本寺あり頂上よりは房總の翠巒を望み眼下に猿島の砲臺を眺むべし



横須賀鎮守府

半島の東岸には金澤、横須賀、浦賀等の勝區
連り西岸には三崎、葉山、逗子、鎌倉等の名
所ありて何れも横須賀より半日乃至一日を以
て遊覽するを得べし

安針塚は横須賀の東北金澤に通ずる途中十三
峠に在り横須賀より半里にして達す英人ア
ダムス夫婦の墓なりアダムスは慶長五年我國に
漂流し歸化して按針と稱し幕府に仕へて三浦
郡逸見の地に二百五十石を給せらる彼常に十
三峠の風光を賞し遺言に依り此所に葬りたり
と云ふ

衣笠公園は横須賀の南一里半に在り衣笠山上は三浦氏累代の城地にして三浦大輔
義明に至り高山重忠の爲に亡されたる古戦場なり城址附近一帯の山を衣笠公園と
稱し數千株の櫻、楓ありて春秋遊覽する者頗る多し大輔の墓は山の東南八町大矢
部村満昌寺に在り

○浦賀は横須賀より南二里にして達す港灣袋の如く侵入し其兩岸は人々櫛比し人
口一萬三千あり嘉永六年六月三日米國水師提督ペルリが軍艦三隻を率ひて初めて
入り來り帝國外交の端を開き我國民に深き印象を與へたる所なりしも商港として
適せず僅に浦賀船渠會社の在るに依りて其繁榮を維持するのみ今は衰退の色あり
然れども流石歴史ある地なれば町内見るべきもの多く中にも愛宕山は西浦賀の後
方に聳え風光頗る佳絶なり觀音崎方面には日本武尊を祀れる走水神社あり大津村
には大津海水浴場あり

ベルリ上陸記念碑は浦賀より海岸に沿ひ千が崎を廻れば半里にして達する久里濱に在り此地は米國使節と徳川幕府の外國奉行とが初めて外交談判を開きたる所にして其所に記念碑を建てあり

○三崎は半島の南端に位する名邑にして横須賀より六里あり居民の多くは漁業に従事し東京市民の口にする魚類の大半は此地より輸送せらる昔源頼朝の屢々來遊せし地にして今の櫻の御所・桃の御所・椿の御所等の趾は皆昔頼朝の別墅を構へたる地なりといふ椿の御所に近き小半島を尾が崎と云ひ風光勝れし地なり町の前面に横はれる城が島は大海の激浪を防ぐが故に海岸は常に浪靜にして海水浴場として適するのみならず釣魚の慰もありて夏季東京方面より來遊する者多し

○葉山は横須賀より西方約二里に在り御用邸の在る所にて風光明媚なり江の島大磯の海岸より豆相の連山・富士山の頂を眺むべし長者が崎には海水浴場ありて

知らる長者園と云ふ旅館あり園の後方なる旗立山は北條父子が旗押立てて和田義盛と戦ひし所にして其東十數町に聳ゆる秋石山は海拔七百十二尺、登臨眺望に富む

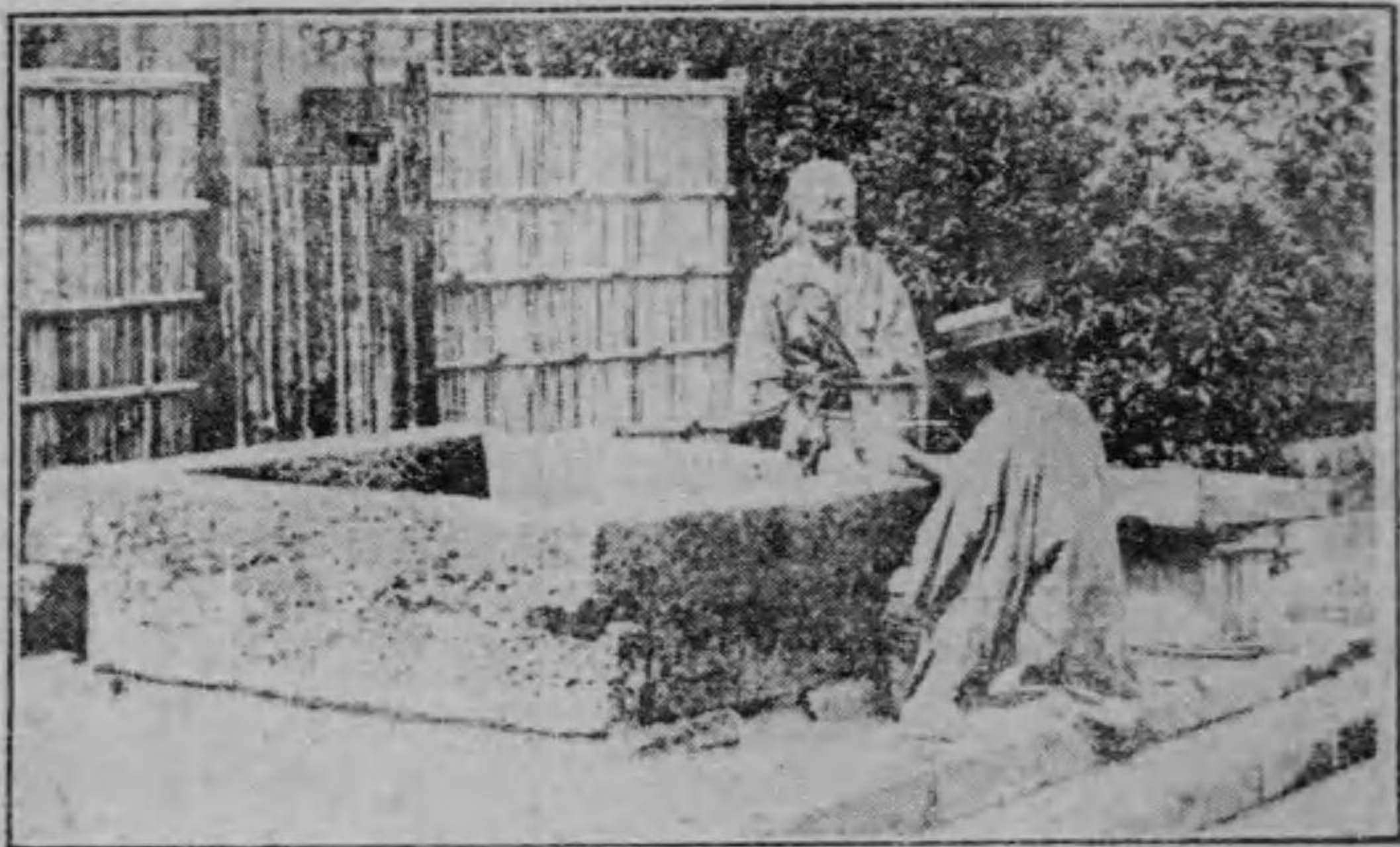
○逗子は横須賀より汽車十分間にて達す海岸波靜にして水清く空氣清冷風光に富めるを以て避暑地として大磯、鎌倉に劣らず海濱は逗子驛より西南十町に在り海水浴地として知らる延命寺には北條早雲と戦ひて敗れ此地に通れて従者と共に自殺せる三浦道春の墓あり又西海濱には小説不如歸に因む名所多し逗子驛より東十町にして神武寺あり幽邃閑雅なる山中に在りて外人の杖を引く者多し

鎌倉

鎌倉は横須賀より五里あり相模國鎌倉郡の南端に位し幅員東西三里、南北一里五

町・面積一平方里半あり東北西の三面は峻峰に圍まれ南の一面は相模灘に臨む所謂由比が濱是れなり或人此地勢を形容して竈の如しと云へり由比が濱は遠淺にして右飯島が崎と左稻村が崎とを繋げる線にても深さ五六丈に過ぎずといふ夏季海水浴客群集す鎌倉の中央には鶴が岡八幡宮あり南方遠く由比が濱に面す八幡大神は源氏の祖 清和天皇の崇められし神にして頼朝に至り之を中央正面に祭り以て鎌倉武士の精神的團結を作りしなり大倉山の中腹には頼朝の墓及大江廣元、島津忠久の墓あり

八幡宮の東八町にして官幣中社鎌倉宮あり 後醍醐天皇第三皇子大塔宮護良親王を祭れる所なり親王は父帝を輔け奉りて中興の大業を成就したる後足利尊氏の讒に依り薬師堂が谷の土牢に幽閉せられ足利直義之を監し建武二年七月二十三日直義の命に依り淵邊伊賀守義博の毒手に罹り最期を遂げられたり御齡二十八歳、其



鎌倉星月夜井戸

後五百年を経て明治二年勅して社殿を造營せられ同六年官幣中社に列せらる本社の中には二の小社あり前なるは忠臣贈従三位村上義光の社(墓は大和國吉野に在り)後なるは大和國吉野郡十津川の志士竹原八郎の女にして女官南の方として土牢の最後まで侍りし方の社なり本社裏手には親王が千歳の恨を残して最期を遂げられたる土牢あり又右手に玉垣 繞らせる所は義博が親王の御首を討ち奉りて外に出てたるに親王御眼を見開き義博を睨み給ひたる御無念の御有様に流石惡逆の義 も大

に恐れて御首を捨てたる首捨の藪なり

八幡宮の西十五町にして長谷の大佛あり北三町にして建長寺あり同寺は北條時頼の建立にして開山は宋の大學禪師道隆なり

其他名所舊跡擧ぐるに違あらず現在の戸數千七百、人口一萬なり内別荘と稱すべ

さもの五百あり鎌倉の別荘は年一年より多く四時の遊覽者夥しく實に鎌倉の價値は遊覽地たるに在り而かも其遊覽地たる價値は歴史的、回顧的なれば現今鎌倉を愛する者は家庭正しき上流社會、規律ある軍人官吏、精神的に生活せんとする學生等にして腐敗墮落の輩の來ること少なきは大に慶すべき事なり

横濱

横濱は日本五港の第一にして夙に世界に知られたる港なり安政六年米國海軍來航

通商貿易を強要せられてより徳川氏三百年の鎖國主義も世の大勢に抗すべくもあらず餘儀なく開港地となしたるより外人の移住する者多く我國貿易の一半は横濱内外人の手に依りて營まれ従つて日本近世の文明は初めて此地に種を蒔かれたるもの多し明治五年横濱、東京間に初めて鐵道を敷設せらる遠州人本間潜藏、播州人亞米利加彦藏、東京人岸田吟香の三人に依りて新聞紙を初めて發行せるも横濱埋地百四十二番館なりしなり又嘉永七年電信を陸上に於て初めて試験したりといふ開港當時人家僅に五十七戸、寂寞の一寒村、蘆荻叢を成したる横濱村も今や人口四十四萬の殷盛なる大都市となれり市内最も繁華にして重なる商店の在る所は元町通、本町通、山下町邊にして劇場等ありて賑かなる所は伊勢佐木町なり重なる建築物には神奈川縣廳、正金銀行、市役所等あり旭硝子製造會社、横濱電線製造會社、植木會社等の見學すべきあり

横濱公園は波止場より一直線にして四町あり伊勢山公園は山の手に在り掃部山には井伊掃部頭の銅像あり三溪園は市電本牧停留場より五町あり原氏の私園なるも公開して一般の遊覽に供し横濱第一の遊覽地なり

東京

東京の地維新前までは江戸と稱し徳川幕府の三百年間政權を握りし所なり然れども其以前は廣漠たる草原若くは松原續きの海濱にして所謂武藏野なりしなり江戸の名の初めて歴史に見えたるは源頼朝兵を起して武藏に入りし時治承四年江戸川越地方の諸將を召すと云ふに始まる其後三百七十八年にして上杉定正の老臣太田道灌城を築きて居を卜したるを江戸城の初とす今の千田代城の濫觴なり道灌此所に居ると三十一年讒に逢ひて殺されて後斯かる天下の名城も世に知られざると百

年、天正十八年秀吉徳川家康を關東八州の主に封じ江戸城に入らしむ慶長五年關が原の大勝後天下の政權徳川氏の手歸するや江戸は忽にして日本第一の繁華地となりぬ是れより太平二百五十年江戸は彌増に榮えたりしも嘉永六年米船浦賀に來りてより世論忽ち沸騰し開港、攘夷の二派に分れ幕府の威信地に落ち遂に慶應三年十五代將軍慶喜政權を奉還して上野に屏居し江戸城は官軍の手に渡され諸大名各々本國に歸り八百八町と稱せられたる江戸の市街は忽にして狐狸白晝に出沒し土一升金一升と稱せられたる地も一文半錢の價值だに無さに至れり然るに此急變は急劇に變轉し明治二年 明治大帝車駕を江戸に進め給ひ東京と改稱し永へに帝國の首都と定め給ひ今や人口二百有餘萬、世界有數の大都會となれり
東京の地たるや東西二里半、南北三里十町、面積五方里、東京灣に臨み東は南葛飾郡に隣り西は南北兩豊島郡に接し南は荏原郡及東京灣に界し北は北豊島郡に連

る市街の東北には武蔵野の平原遠く連り東部には隅田川の貫流するありて地勢稍平坦なれども西北は高燥にして丘陵起伏し多少の高低あり丘陵に屬するものを古來山の手と稱し本郷、小石川、牛込、麴町、四谷、赤坂、麻布の七區に分ち丘陵の間より東西に連なる平地に屬するものを下町と稱し下谷、淺草、神田、日本橋、京橋、芝の六區と隅田川を隔てて本所、深川の二區とに分ち總じて東京市を十五區とせり

日本橋は古來市の中心となし東京市の街衢計算基點、日本全國里程の元標なり丸の内には 聖上陛下の在します宮城を初めとし天下大小政令の依つて出づる諸官衙、交通機關の樞軸たる中央停車場等あり丸の内は舊江戸城の内廓にして日露戦争記念として造られたる凱旋道路は宮城の正門二重橋より起りて幅五十間あり二重橋東南の一角には楠正成の銅像あり

二重橋の濠に沿ひて右折して北に向へば和田倉門に出づ左に宮城坂下門あり門に向ひて左は内閣、正面は宮内省なり又左折して南に向へば櫻田門あり大老井伊掃部頭が水戸の浪士の義刃に討たれたる所なり門を出づれば一直線の垣道虎の門に通ず此間を霞が關と稱し右方には外務省、露國大使館、左方には司法省、地方裁判所、控訴院、大審院、海軍省、帝國議會あり

櫻田門の右手高地に參謀本部、背後に陸軍省あり海軍省の北手に日比谷公園あり市民遊覽の庭園として東京第一なり之に面し華族會館あり公園を出て濠に沿ひ左折すれば帝國劇場、警視廳あり馬場先門外に出づれば凱旋道路に沿ひて洋館櫛比し市の模範市街と稱せらる帝國劇場の裏手一帯を有樂町と云ひ東京府廳、市役所其他の大建築物あり又日比谷大神宮、帝國ホテルあり

二重橋を北に和田倉門を出づれば直に大手町に達す舊時大手門の在りし所にして

内務省、大藏省、憲兵隊本部、印刷局、中央電話局あり

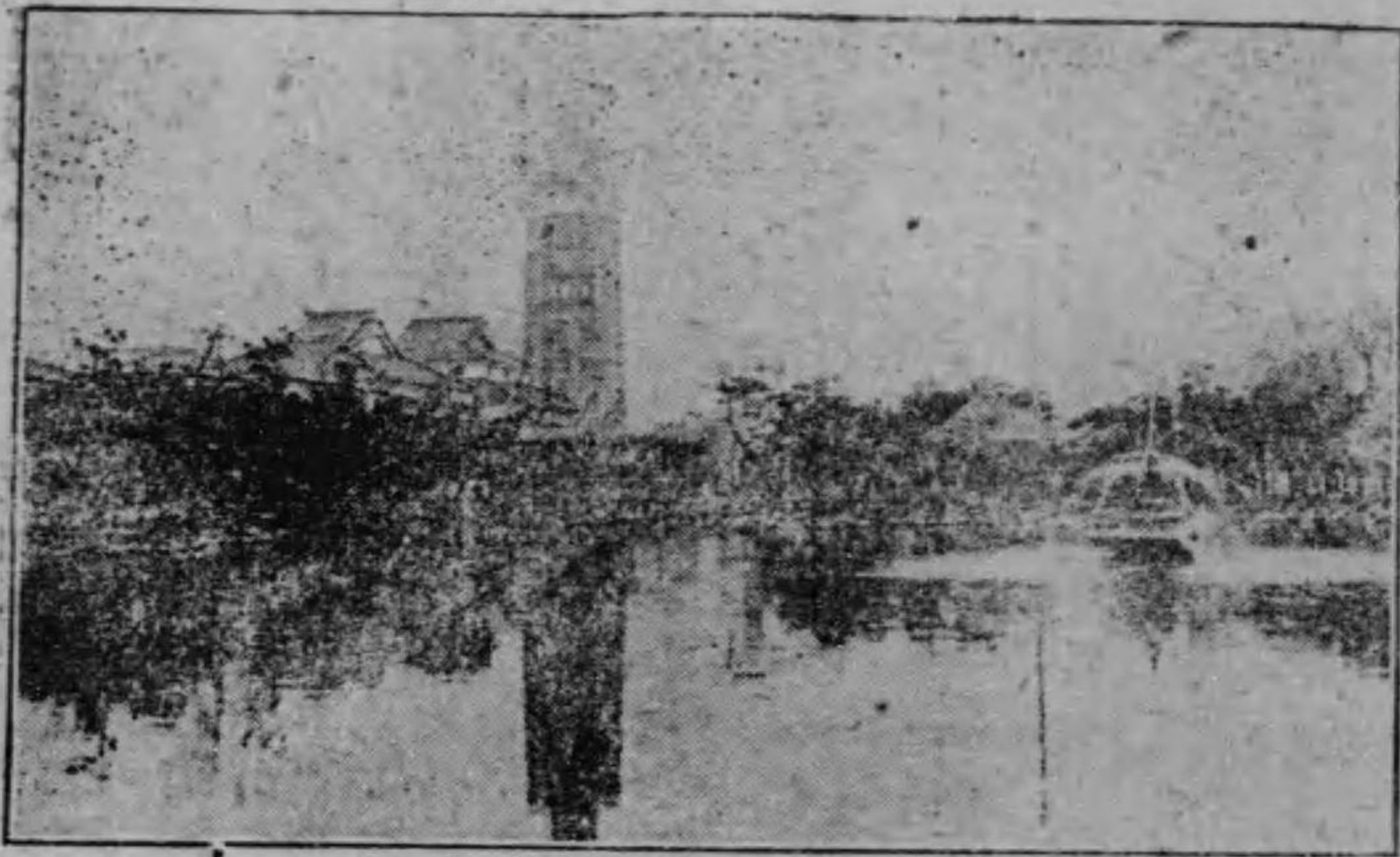
京橋區出雲町より芝區芝口に架する橋を新橋、云ひ新橋以北京橋までを銀座通と稱し市内最も繁華なる所なり東方海濱には芝離宮あり其對岸には遞信省あり

築地は明歷四年佃島の網干場を埋め立てたる所にして海軍大學校、海軍工廠の見るべきもの多し佃島は市内に珍らしくも多くの漁夫住し朝暉夕陰十五區中の別天地を成す

日本橋の東に架したるを江戸橋とし日本橋郵便局あり

日本橋附近には三越、白木等の呉服店あり日本、三井、村井、森村、第百等の銀行あり兜町には株式取引所、蠣殻町には米穀取引所あり有名なる水天宮は蠣殻町有馬邸内に在り

東京市を東西に區劃する長流を大川と云ひ其上流を隅田川とす隅田川に架する長



東京淺草公園雲閣

橋を吾妻橋、厩橋、兩國橋、新大橋、永代橋とし別に其上流に架する千住大橋と合せて六大橋と稱す

回向院は兩國橋詰に在り境内に國技館あり
龜井戸天神は龜井戸に在り吾妻橋を渡りて左折すれば向島公園あり隅田堤の櫻は天下に名高し

淺草には淺草觀音(淺草寺大伽藍)あり東本願寺別院あり淺草公園には花屋敷、十二階、劇場等あり市の樂園にして東京に足を入るる者皆此所に集まらざるはなし

上野公園は市内第一の勝地にして博物館、動物園、圖書館、西郷南洲の銅像、東照宮、不忍池等あり公園の附近湯島には湯島天神あり神田には神田明神あり東京帝國大學は本郷に在り東京砲兵工廠は小石川に在り早稻田大隈侯邸の隣に早稻田大學あり市谷には陸軍士官學校、中央幼年學校あり九段坂には靖國神社あり左方の清水門内には近衛聯隊の兵營ありて故陸軍大將川上操六、子爵品川彌二郎の銅像並び立つ靖國神社正門に面して偕行社あり靖國神社の東北隅には遊就館ありて各戦役の遺物あり青山には東宮御所あり其背後は赤坂離宮なり御所の裏手廣漠たる坦野は是れ青山練兵場にして明治大帝の御大葬儀を行はせ給ひたる所なり赤坂新坂町には乃木大將邸の跡あり將軍の遺志に基き市に寄附して公園とせり前なる坂を乃木坂と云ふ

芝公園は増上寺境内に在り公園に隣りて愛宕山あり突兀たる高丘にして境内眺望佳絶にして市の大半は雙眸の中に入る高輪には高輪御殿あり泉岳寺は赤穂四十七義士の墓に依つて名高し

清水港及附近

清水港は静岡縣に在り東海道屈指の港灣にして今は特別輸出港と定められ静岡縣の茶は多く此所より海外に輸出さる清水より十町にして江尻停車場あり龍華寺は清水の西南十數町の所に位し風光明媚を以て名あり伊豆の翠巒より薩陀峠さては興津、江尻の長汀曲浦、盆山の如き富士の大嶽、盃水の如き駿河の海灣、此等を一眸の内に收めたる景色壯大且開豁にして如何なる畫伯も筆を投げて自然の妙技の及ぶべからざるを嘆ずべし北隣には鐵舟寺あり

清見寺は興津北端の高丘に在り。天武天皇白鳳二年の草創にして中古廢絶せるを德川家康の再興せしものなり庭園には飛泉九曲懸り池畔には牛石、龜石、虎石等の奇石あり境内より清見瀉を眺むる景色は頗る佳なり。興津より舟行一里にして海中突出の一洲宛然浮島の如きもの之を三保の松原と稱す古來眺望佳絶の地と稱せられ一條の青松黛の如く長さ一里餘に亘り海風松に衝りて不斷の琴を奏て白砂一路霜の降れるが如し南は渺々たる太平洋煙波茫茫直ちに南溟に入り北は駿河灣の穩波を隔てて清見寺一帶の翠巒を望み三保神社の邊り松聲濤語靜なる所謠曲に名高き羽衣の松あり老梢蒼翠千古の遺風を傳へ幹根蟠屈龍も之を居眠の枕とせん

津

津は藤堂三十五萬石の舊城下にして岩田川市街を横斷して東西に流れ河口阿漕が浦に臨みて贊崎港を擁す街衢整然として豪商薨を列べ「伊勢は津で持つ」の俗謠に負かざるの觀あり今や人口三萬六千を有し三重縣廳、地方裁判所、小林區署、稅務署、商業會議所、諸學校、米穀取引所等あり物産は阿漕燒、茄子團扇、傘、下駄等なり停車場の東南十九町、波止場よりは八町にして津城址あり本丸と西丸との石壘を存し老樹蔚茂し舊濠依然之を圍み濠中蓮花多し城門に京口門、伊賀口門、中島門あり門内を中の内と稱し高山神社あり藩祖藤堂高虎を祀る。津公園は市の北方を流るる安濃川に臨み天然の丘陵に人工を加へ櫻、楓、躑躅を植ゑ頂上傘臺よりは伊勢灣の眺望、知多半島の遠景、一幅の繪圖の如し。觀音寺は市の中央大門に在り藤堂氏累代の菩提所なり。阿漕か浦は海水清く遠淺にして海濱白砂青松相連りて海水浴に適す又阿漕には平

次。の。墓。あり昔此邊一帯の海は伊勢大廟の神饌に供すべき御贄の漁場にして殺生禁斷の場所なりしを漁夫平次と云ふ者老母の難病に此浦の矢幹魚が無二の良薬なりと聞き竊かに網を入れたる爲簀卷にして海底に沈められしと傳へらる今此所に参宮線の停車場あり

伊勢神宮及附近

津より参宮鐵道に依るゝ鳥羽より上陸して参拜するも共に宇治山田驛に下車すべし
外宮は山田驛より五町にして一の鳥居に達す右方に老楠ありて清盛楠と稱せり宮は高倉山の麓に鎮座ましまし五穀發生の原を掌り天下の人民に衣食を幸ひ給ふ御神なり元丹波國比治に鎮座ましましたるを 雄略天皇の御代に此地に移し奉りた



伊勢五鈴川内宮洗手場

るものにて内宮の此地に鎮座ましましてより四百八十二年の後なりといふ内宮と同じく二十年毎に社殿を新築し正遷宮の大禮を行はせらる神苑廣く樹林鬱蒼として賽者自然に敬虔の念を生じ覺えず襟を正す
内宮は山田驛又は外宮前より電車に乗れば約二十五分にして達す電車を下りて左に進み五十鈴川の清流に架せる白木造りの神橋を渡れば即ち神苑なり宮は神路山の麓に鎮座ましまし畏くも 天照大神を祀り奉る我皇室の宗廟にして元皇室に奉祀せられたりしも 崇神天

皇の御代に大和國笠縫の里に移し奉り 垂仁天皇の御代に倭姫命が神誨を請けて
此地に齋さ奉りしものなり國家皇室に關する重大事變ある時は必ず勅使を御差遣
ありて奉告せらる

朝熊山は内宮より登れば一里二十九町にして頂上に達す二十町餘り登りたる所に
楠部峠の眺望臺ありて伊勢灣を見渡し得べし更に登れば豆腐屋と云ふ名高き旅館
あり此所よりの眺望頗る佳し山上には金剛證寺あり本尊の虚空藏尊は弘法大師の
作なりといふ門前には有名なる萬金丹を賣る家あり

古市は外宮より内宮に參拜する舊道にして今も尙參拜者の片道は古市を通るを便
とせり以前は遊女屋軒を列ねありしが今は減じて十數軒を残すのみ

古市左方の倉田山には農業館、徴古館あり徴古館には神宮の寶物、上古の遺物、
各時代の服裝、古文書、繪畫、器具等を陳列し農業館には農林、水産、工藝等に

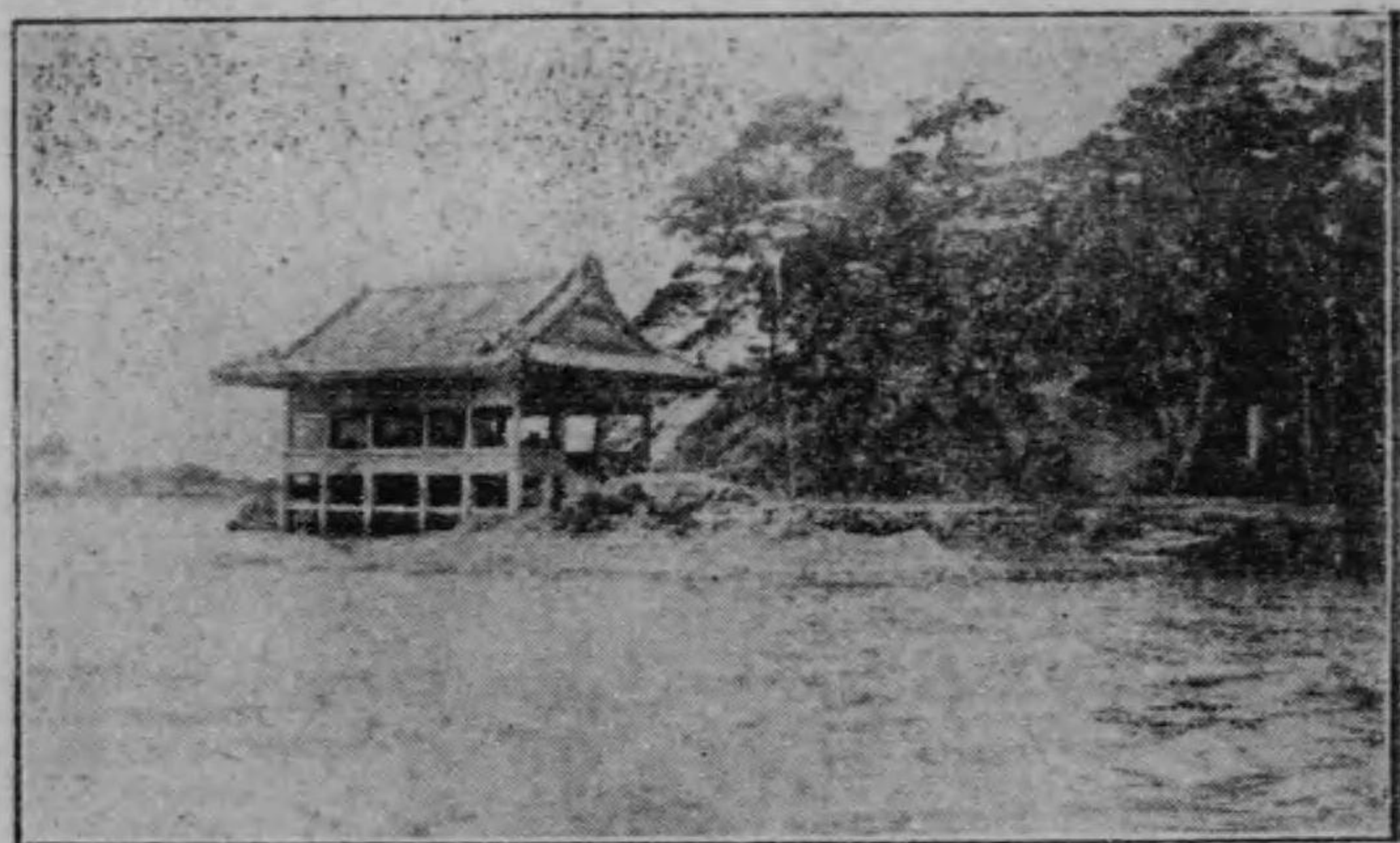
關する器具、標本、模型、製作品、統計表等を陳列す其附近欣淨寺の一隅には倭
姫命の御陵墓參考地あり

○鳥羽は伊勢灣の門戸にして清水、津と共に東海沿岸の要津なり豊公征韓の役に
水軍の將として偉功を立てたる九鬼義隆の城址は鳥羽驛に近く海に面して在り又

日和山あり眺望頗る佳し鳥羽には商船學校、造船所あり
二見の浦は夫婦岩に依つて名高し岩より岩には大注連繩を張り此間より朝日の登
る光景は實に天下の絶景なり外宮、内宮より電車の便あり

和歌の浦及和歌山

和歌の浦は和歌山市の南岸に位し名所舊蹟の多きこと何人も知る所なり其重なる
ものは紀三井寺、玉津島神社、片男波、妙見山、東照宮、南龍神社、鹽竈神社等



和歌の浦の観海閣

なり
紀三井寺は名草山の半腹に在りて電車停留場
に近し西國第二番の札所にして麓よりは二百
餘の石段あり本堂は十一間四面にして山門、
鐘樓、開山堂、本坊等之に附屬し眞言宗の巨
刹なり「はるく」と尋ねて此處に紀三井寺佛
の惠頼もしきかな」と云ふは當寺の御詠歌な
り境内より眺むる和歌の浦の景色は頗る佳し
近時和歌の浦西方の山を拓きて旅館、料理屋
等建て列なり京阪地方より遊ぶ者多く新和歌
の浦と稱す

和歌山は新和歌の浦より電車二十分間にして達す此地は徳川氏の親藩紀伊大納言
の舊城市にして今や人口八萬、北海道第一の都會なり紀州ネル、蜜柑、漆器等の
名産あり和歌山城址は市の中央虎伏山に在りて竹垣城と稱す三層の天主閣は高く
聳え此所より眺望すれば市内外の風光一眸の内に集り風光佳絶なり
外濠の周圍には縣會議事堂、市役所、裁判所等あり城址に續く天妃山は岡公園と
稱し市内第一の遊園地なり
市内の名所は感應寺、禪林寺、松生院、鷺の森御坊等なり鷺の森御坊は西本願寺
別院にして顯如上人石山合戦の後此所に移り道場を建立せる眞宗靈場なり

大阪

大阪は最も古き歴史を有する地にして 神武天皇東征の時船を此地に泊め流潮の



大 阪 道 頓 堀

て四百八十ありといふ世人大阪を川の都、橋の都と稱するも亦無理ならぬ事なり
 市内最も繁華なる所は道頓堀、千日前にして殊に千日前は最も名高し又心齋橋通は商業最も繁盛なる所なり
 四天王寺は紀元千二百五十三年聖徳太子の建立せられたる天台宗の古刹にして我國佛教の開基なり境内東西八町、南北六町ありて五重の塔に登れば攝河泉の山河より遠く淡路島をも見渡され眺望甚だ佳し又東洋第一と稱する大鐘あり龜の池の邊には梅が枝の手洗鉢あり

早きを給ひて浪速と呼び給ひしより此地を浪速と稱せり。仁徳天皇の御代高津の宮を御造營あり其址は今の大阪城址中宰相山の附近なりといふ大阪城址一帯の丘陵は元石山と稱し蓮如上人此所に本願寺を建て真宗を弘めたりしに天正年間豊臣秀吉此所に城を築きて天下に號令するに至れり秀吉の志圖雄大なりしことは此城址に依りて立證せらる内堀正面の石壁には一石にして幅五間長さ十間厚さ三間に餘るものありて其時代如何にして之を運びしやを疑はれ人の驚歎する所なり
 大阪は豊臣時代より全國商業の中心地となり徳川時代も依然商業の權威を維持せしに維新以來海外貿易の發達と共に生産工業益々進歩し我が一都市の大阪は遂に世界的の大阪となれり今や人口百六十萬、市域は東西二里二十町、南北二里三十町、面積三方里餘、東區西區南區北區の四區に分ち町數九百十町あり
 市内には無數の川ありて縦横に流れ運輸交通の便を助け之に架する橋は大小合せ

寶物館には楠公菊水の旗、頼朝石橋山旗揚の時の陣太鼓等あり此邊一帶の地は元

弘の頃の古戦場にして殊に名高きは楠公の陣せられたることなり

天王寺公園、新世界は此附近に在り公園の附近茶臼山は豊臣氏の末世大阪方の名

將木村重成が血判を迫つて徳川家康の膽を挫き列み居る天下の諸侯を驚かしたる所なり

中の島公園は市内第一の遊園地にして左方堂島川、右方土佐堀川の中間に挟まり夏夕納涼者の集る所なり公會堂あり圖書館あり秀吉を祀れる豊國神社あり木村重成の石碑あり

天満橋北詰を川に沿ひて進めば造幣局にして櫻樹多きを以て花の候には特に開放して一般の觀覽を許さる

神戸及附近

神戸は關西地方の要衝に當り瀬戸内海に臨み本邦第一の商業都市たる大阪市を附近に控へ關西の貿易上の門戸にして輸出に輸入に貨物の輻輳甚だ多く今や人口五十五萬 本邦總貿易額の約四割を占む

神戸市は瀬戸内海の風波靜穩なる所に位置し東北に互りて六甲山脈あり市の背後には摩耶山、兩度山、鷹取山等の高峰あり

市内最も繁華なる所は榮町通、元町通にして榮町通は銀行會社多く金融の中心とも謂ふべく元町通は商業の中心にして海岸通は運輸交通の中心點なり物産の主要なるものは燐寸、綿絲等にして牛肉、瓦煎餅等の名物あり川崎造船所、三菱造船所、鐘淵紡績工場、日本燐寸會社、日本製粉會社、神戸製鋼所等の大工場あり

此地今より六十年前は淋しき磯濱に過ぎざりしに横濱と同じく外國貿易の爲俄に開港せられ爾來長足の進歩をなし遂に今日の隆盛を見るに至れり

湊川神社は神戸を見物する者必ず參詣せざるべからず神戸驛の前通り約一町に在り表門を入りて右折すれば水戸光圀公の建てたる「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑ありそれより神前に賽し西門を出て北へ四町にして楠寺と稱する廣嚴寺あり正成が戰敗れて主従七十三騎となり此寺に駆け入り客殿にて自刃せりと傳へ寺寶に楠公の遺物あり

生田神社は三の宮に在り境内は鬱蒼たる森にして官幣中社なり壽永の昔源平の戰に梶原源太景季が箴に梅花を挿して奮戰したる所なりといひ謠曲「箴」に名高し布引の瀧は加納町に在りて納涼の勝地なり此龍壺は市水道の水源となり瀧の左方に貯水地を設けあり

摩耶山は六甲山の左方に在りて樹木森々たり山上には刀利天上寺あり避暑に適す赤松圓心が大塔宮の密勅を奉じて勤王の旗を押立て北條高時を攻め楠公赤坂城の圍を救ひ偉功を奏したる摩耶城址は天上寺の右方下二町に在り天上寺には摩耶夫人堂として釋伽如來の母君を祀れる堂あり其右に多寶塔あり外人は之をムーンテンブルと稱し居留人間に賞美せらる天上寺の裏手には圓心の碑あり

兩度山は摩耶山の左に在り弘法大師唐に渡らんとして此山に上り方位を定め和田の岬より乗船し歸朝の時再び此上に登りしを以て再度山と稱すと言ひ傳へり

錨山は兩度山の右に在り鷹取山には稻荷を祀り婦人に靈驗著しきを以て福原邊の花柳界より寄進の金品頗る多し

諏訪山公園は神戸第一の公園にして山頂に上れば神戸全市は勿論左は紀泉の諸山

右は淡路島より須磨、明石の海岸まで一眸の中に集り眺望佳絶なり金星の太陽面通過を観測せる佛人を記念せる金星臺あり

大倉公園には兵庫縣第一次の知事たりし伊藤博文の銅像あり

湊川遊園地は楠公一族が最後の花々しき戦をなしたる古戰場なるも今は俗悪なる

雑沓の衢と化し去りぬ

福原游廓附近は平清盛の經營せる福原の舊都なりしといふ清盛が三十人の人柱を埋めて辛うじて填築せりといふ經が島は今の築島寺の所在にして本堂の前には人柱となりし松王の碑石あり

和田の岬は兵庫第一の名勝地にして燈臺あり遊園地あり

○須磨は兵庫より電車に乗れば直ちに達す海濱は白砂青松優艶明媚にして遊賞飽くことを知らざる景致なり須磨寺は遊園地となりて池の周圍には動物園あり又數千

の櫻樹ありて花季の遊覽者頗る多し此寺には敦盛が青葉の笛、辨慶若木の櫻の制札と傳ふるもの等源平の遺物多し

須磨驛より海岸に沿ひ一の谷、二の谷、三の谷あり一の谷は源平の古戰場にして壽永の帝の内裏跡は其小高き所に在り一の谷の背後には鐵拐が峰あり有名なる鶴越の險は其北方に在り無官大夫敦盛が熊谷次郎直實と引組み悲しき最期を遂げたる所は此邊の海岸ならん

三の谷の西電車線路近くに五輪の石塔あり北條貞時が平家追悼の爲に建てしものなるも今は敦盛塚と呼び倣せり塔の前には敦盛蕎麥を賣る家あり

○舞子は須磨より電車にて直ちに達す舞子驛附近は公園なり此邊の松は白砂の上に幹枝共に屈曲して百樹皆奇態妙趣を有し樹下掃除行届き散策すれば神氣爽快を

覺ゆ

○明石は兵庫より須磨、舞子を経て電車にて行くを便とす元松平氏の城下にして人口三萬五千を有す町の背後の丘陵には人丸神社あり歌仙人丸の像を安置せり人丸神社の左方老松の間に高く見ゆるは明石城址にして其一部を遊園地となし藩祖を祀れる明石神社あり

吳 及 音 戸

吳は元一漁村たりしに明治十六年瀬戸内海に軍港増設の議ありて廣島縣下吳が第一に選定せられ十六年二月海軍水路部より測量船を派遣し其海面の測量に着手したり當時の吳人は大に驚き且怖れて命の綱の漁場を奪はるるにあらざや祖先傳來の田畑を召し上げらるるにあらざや砲臺を築いて敵彈が飛び來るにあらざやと眞墨き測量船に向つて無智の呪咀をなしたりしが越えて十九年土地を買収し同十一



吳 鎮 守 府

月工を起し二十三年海陸の設備成り同四月二十一日吳鎮守府開廳式を舉行し 明治大帝親しく御臨幸あらせられ優勅を給ひてより科學的事物は駸々として發達し日清、日露の兩戰役及大正三年以後の世界戰亂に處し我海軍をして遺憾なき措置を行はしむるを得名實共に東洋第一の軍港となれり軍港の發展と共に此地に移住する者多く今や人口十四萬を算するに至れり市内最も繁華なる所は本通一丁目乃至九丁目にして中通七八丁目邊は劇場等ありて俗に千日前と稱し雜沓の場所なり

二河公園は吳市唯一の遊園地にして各地著名なる公園の長所を採り林泉の景を巧に配し頗る雅趣あり園内廣くして野球場あり音樂堂あり參考館あり園の左方二河の清流に沿ひ瀧下まで廣き坦道ありて夏夕納涼散策する者多し

灰が峰は縣下有數の高峯にして海兵が毎年登山競技を行ひ健脚を練る所なり頂上の眺望好し

○音戸の瀨戸は平清盛の開鑿せる所にして警固屋町と音戸町とを距つる海峡を云ふ久安二年清盛安藝守に任せられ舟に乗じて屢々此地を往來す然るに警固屋町より音戸半島に通ずる細き地峽ありて其形瓢の如く僅に頭を擧ぐれば前方の海を望み見れども水路なければ舟を行るに由なく遠く南方に下りて早瀨瀨戸を迂回せざるべからず短氣の清盛舟にて此地に來る毎に氣を焦ち或る時肝癢むらくと起り「一跨マダギにも足らぬ所を遠く十里餘も廻り道することの馬鹿々々しさよ、いて此處

を切り割りて眞直に舟を行るこそ好けれ」と言へば居合はす人々顔を見合し「こは思ひも寄らぬ仰かな、いかて人力の及ぶ所ならんや」と言ふに清盛聞いて色を變じ「なに人力に及ばずとや天魔をも驅るべく鬼神をも役すべし天下何物か人力に依りて成らざるものあらんや、いて清盛が見事切り開きて見すべきぞ」と横紙破りの本性を顯はし直ちに地峽開鑿の事業を起し毎日人夫を使役すること數千人、費用多しとて何か厭はん工事難しとて何か屈せん怠る者は怒りて策ち働く者は賞して勵まし作業日に進み工終に成る瀨戸狭くして潮流疾きこと矢の如く操舟頗る困難なるは「船頭可愛や音戸の瀨戸で一丈五尺の櫓がひはる」の俗謠ある程なれども舟路甚だ近きを以て東航西泊皆此地を過ぎ後世永く其便を蒙る清盛の肝癢又偉大なりと謂ふべし國人之を徳とし後二十一年元暦元年石塔を瀨戸の入口に建て毎年三月三日踊念佛を行ひ以て清盛の追福を營む塔は四層より成り高さ九

尺六寸あり稱して御塔と云ふ

廣島

廣島は吳驛より鐵路一時間にして達す太田川の三角洲上に在る市街にして北には廣島平野を控へ南は直に海に臨み宇品港を其埠頭となす元淺野氏の城市にして今や人口十五萬を有し山陽、山陰兩道第一の都會なり市内には太田川の分流せる數條の川ありて到る所橋多く恰も大阪の如し物産は家具、佛壇、牡蠣、祇園坊白柿、柿羊羹等の名産あり重なる建物は第五師團兵營、廣島縣廳、市役所等なり

大手通を北に行けば練兵場あり幼年學校あり其奥に五重の天主閣高く聳ゆるを見る是れ舊廣島城なり城は天正十七年毛利輝元 築營に係り關が原の役後福島正則の居城たると二十年、幕府の嫌疑を受け領地を沒收せられ淺野氏代りて城主とな

り維新に及べり日清の役には 明治天皇親しく大纛を此地に進め給ひ城中を大本營とし軍國の事を統べ給へり城内には第五師團司令部あり



廣島城の東神田川に臨みて
 廣 淺野氏の庭園あ。俗に泉邸
 と呼び縮景園とも稱す神田
 島 川の清流を引きて泉池を作
 り池中に島あり元和元年淺
 野長晟入國して造れる所に
 城 して既に三百年の星霜を経

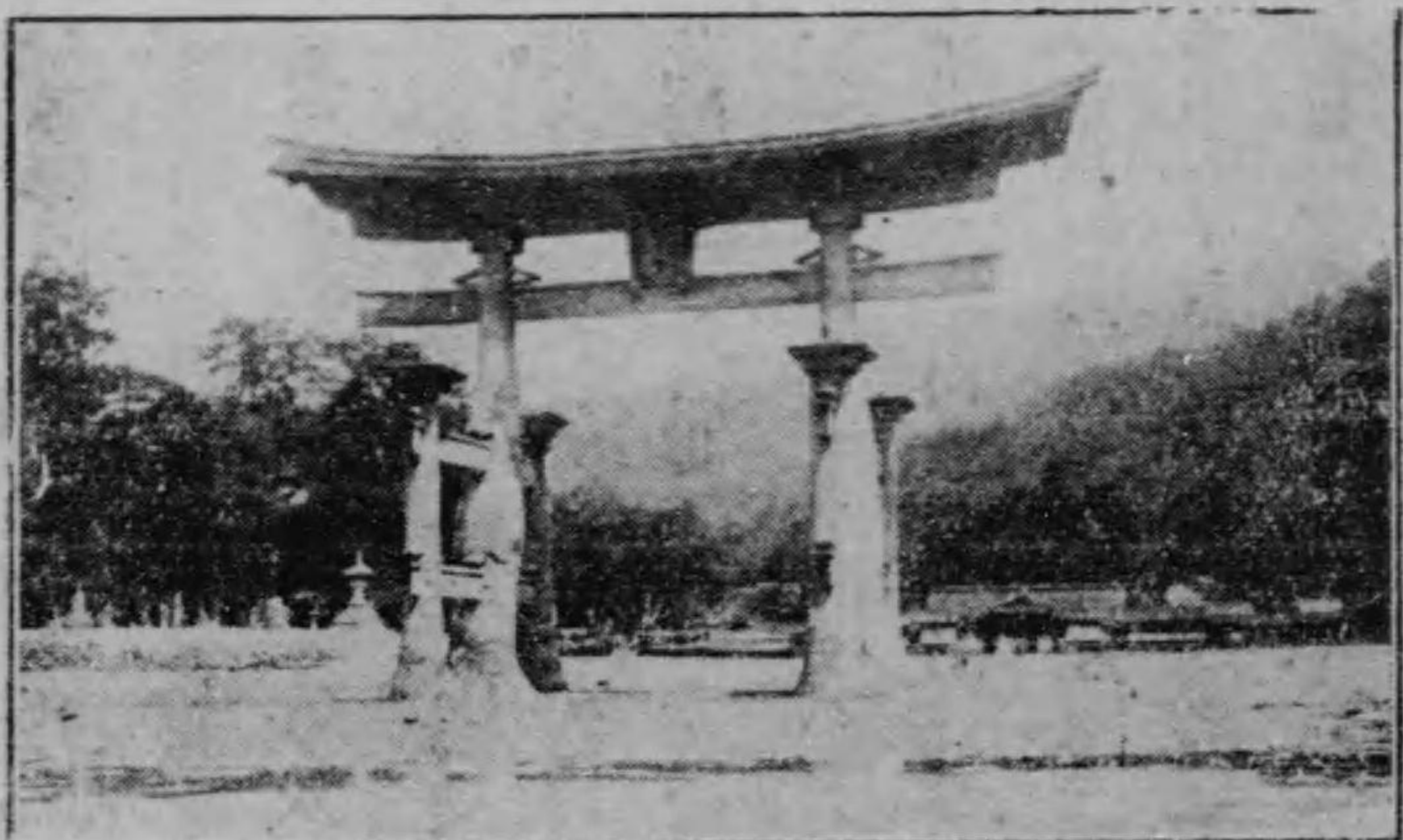
たれば泉池樹石古色を帯び幽邃閑雅の仙境なり

神田川に架したる常葉橋を渡れば二葉公園に至る縣社饒津神社あり淺野長政の靈

を祀れり後丘の二葉山に登れば眺望頗る佳し神社の東には忠魂祠堂、鶴羽神社、東照宮あり浅野家の菩提所なる國清寺あり
 宇品は廣島の海港にして日清、日露、世界戦亂に際し軍事上重要な兵站地として知らる廣島市の繁榮は此港に負ふ所少からず陸軍運輸本部、糧秣支廠等あり臺灣航路、瀬戸内海航路等の汽船寄港す港西には向宇品あり長橋を以て通じ中島には觀音堂、遊廓あり

嚴島

嚴島は松島、橋立と共に日本三景と稱せらる廣島灣の西南佐伯郡の陸岸に對する風光秀麗なる島にして東西三十町、南北二里半あり嚴島神社は官幣中社にして市杵島姫、湍津姫、田心姫を祀れり平清盛が安藝守に任ぜられてより此神を崇敬して



嚴島大鳥居

大に社殿を修築す寶前の左右廻廊は屈曲百四十八間に互り一間毎に鐵燈籠を懸け祭日に當り此燈籠を點すれば遙に海中の大鳥居を潜りて滿ち來る波に映じ光彩陸離名狀すべからざる美觀を呈す宮殿の前方左右の海岸松並木に沿ひて無數の石燈籠あり此邊には神鹿逍遙して馴々しく參詣人の傍に寄り來る此神社の結構は自然の景勝に殿閣廻廊を排布しあるを以て遠く海上より眺むるも高く彌山の頂より俯視するも風正佳絶なり
 神社の後方に御手洗川あり川を渡れば大願寺

あり海濱に沿ひて進めば大元神社あり境内大元公園には櫻樹多し
紅葉谷は神社の東御手洗川の上流に在り兩岸楓樹多く奇橋怪石ありて幽邃閑雅の
仙境を成す旅館岩惣の料亭あり

宮の東方丘陵には千疊閣及五重塔あり共に特別保護建築物にして其所在地を塔の
岡と稱す弘治元年陶晴賢が陣を布きし所にして之と相對する要害が鼻には毛利元
就城を築きて對陣せり元就暗夜風雨に乗じて急に敵陣を襲撃し晴賢敗れて自刃す
元就此一戦に奇捷を得て遂に毛利氏勃興の基因を成すに至りたる古戰場なり五重
塔は豊公島津征伐の途次社參して戰捷を祈り歸途報賽の爲に建築せるものにして
美術的技巧なきも雄大なる風姿ありて豊公の氣宇の半面を顯しあり

彌山は大宮の後に聳ゆる秀麗なる高峰にして海拔千三百六十五呎、紅葉谷口、大
元口、多寶塔口、瀧町口の四條の登路あるも多くは瀧町口より登る途中瀧の宮、

白絲の瀧あり頂上よりは瀬戸内海一帯の風光を望み得べし

岩 國

岩國は錦帶橋に依りて名あり地勢三方丘陵起伏し中央に錦川の貫流せるあり以て
舟楫の便を助く往古は荒草離々たる原野なりしも慶長五年雲州富田の城主吉川廣
家此地に封ぜられ同八年築城の工を起し士民密集始めて岩國城下は形成せられた
り斯くて十三世、二百七十餘年を経て王政復古となり明治四年廢藩置縣に依りて
山口縣岩國町となれり名所舊跡の重なるものは岩國山、龜が城址、招魂場、城山、
錦川、錦帶橋、吉香神社等なり

錦帶橋は構造の奇なるを以て其名天下に顯る橋上に立ち仰いて城山を望めば老松
鬱蒼千古の翠を凝し伏して脚下を見れば澎湃たる奔流橋礎に碎けて滔々聲あり夏

夕涼を此所に納るれば晝間の蒸熱を洗滌して神氣爽快を覺ゆ

錦川の架橋は以前より幾度か試みられしも夏季大洪水に遭ふ毎に流失するを以て長き年月の間渡船を以て往來せしが一朝河水氾濫せば舟楫通ぜず交通杜絶し不便少なからず藩主吉川廣嘉深く之を憂ひ構慮多年遂に奇巧精緻天下絶無の名橋を架設せり是れ即ち錦帶橋なり時に延寶元年今を距ること二百四十年なり爾後歲々河水暴漲し滔々たる濁流長堤を突破することあるも錦帶依然として濁流荒暴の中に立ち交通杜絶の舊態を再び見ざるに至れり

橋の構造は五つの反橋ノリハシより成り其三つは石臺上に架し二つは柱を以て支ふ橋の板敷は檜板を用ひ其厚さ二寸五分毎橋階段百二十枚にして橋板の相接する所は銅飯を覆ひ以て雨水の漏洩を防ぐ橋腹は二箇の人字形木、百數十箇の鞍木及八十餘箇の十字形木等縦横交叉し結構實に巧緻を極む橋の全長一百二十五間、幅二間四尺

五寸、最高水平面より約五間二尺なり

錦帶橋には古來異名多し清海橋と謂ひ凌雲橋と謂ひ凹凸橋と謂ひ帶雲橋と謂ひ五龍橋と謂ふは皆形容の美稱にして岩國橋と謂ふは地名より來れるものなり又俗に十露盤橋と謂ふは橋腹の構造恰も算盤に似たるを以てなり而して其本稱錦帶橋と謂ふは錦川に帶の如く跨れるが故なるべし

吉香神社は縣社にして横山字上口に在り例祭日は四月二日及三日、祭神は吉川元春なり祠宇宏壯且秀麗にして老杉森然、社前鳥居高く秀て神威尊嚴なり神橋を渡りて右折すれば大砲二門あり慶長年間吉川廣家朝鮮蔚山に於て戰利せるもの砲身の長さ八尺八寸、口徑四寸、重量三百七十五斤あり拜殿に入れば楣間の額面「吉香神社」の四大金文字は是れ故大勳位有栖川熾仁親王殿下の御筆にして詣客をして覺えず襟を正さしむ祠畔濠に沿ひて數千株の櫻樹あり此邊一帯を岩國公園と稱

し士女遊覽の勝區なり

高 松

高松は舊松平氏の城市にして讃岐國第一の都會なり人口五萬を有す高松城の一部は今尙殘存せり栗林公園は岡山後樂園に遜らざる有名の公園にして高松に遊ぶ者此公園と屋島とは必ず見物すべしなり公園は波止場より電車に乗れば五分にして達す今より二百年前藩祖松平頼重の築造せるものにして面積十六萬五千餘坪あり稻荷山の翠巒を背景とし頗る雅致に富む屋島は公園より三十分にして麓に達すそれより山上まで十八町あり源平の古戰場にして山上には尾島寺ありて源平の遺物多し山上よりは高松市・玉藻城・壇の浦一帯を眼下に見下し其風光四國第一と稱せらる

別 府 温 泉

別府は温泉を以て夙に世人の知る所なり地は豊後國別府灣に臨み東西二里、南北一里、人口二萬六千あり豊州線鐵道市街の南北に貫通し別府、濱脇の二驛あり別府を起點として大分市との間に電車あり又別府灣は水深くして船舶出入便に大阪商船其他遊覽汽船の定期航路あり

温泉の起原は神代の昔大己貴命、少彥名命の二神自ら温泉に浴して其効能を里人に傳へ給ひしに始まり人皇十二代 景行天皇の御宇より其名愈々世に現れたりといふ明治七年別府、濱脇の兩地を改築せしより遂に今日の繁盛を見るに至れり温泉は古來八湯に別たれ別府、濱脇、觀海寺、龜川、堀田、鐵輪、明礬、柴石の各所に在りて各其泉質を異にし今鐵泉あり硫黃泉あり食鹽泉あり炭酸泉あり其湧

出量の豊富なること山野委く其噴出を見る從て旅館は勿論普通の商家にても到る所内湯あり

別府に於ける共同浴場は不老泉、楠湯、田の湯、靈潮泉、竹瓦温泉、東温泉、西温泉等なり近時交通の便大に開けたると共に京阪、中國地方は勿論遠く東京方面より來る者頗る多し

殊に海濱砂湯の如きは世界無比の稱あり干潮の時海濱隨所の砂汀を掘鑿して全身を埋むれば靈泉沸々として五體を潤し萬病を醫するを以て海岸一帯の地洋傘或は天幕を以て日除けとなし砂浴する者多數にして頗る奇觀なり

附近遊覽地としては「地獄めぐり」と稱するものあり即ち八幡地獄、昭湯地獄、紺屋地獄、坊主地獄、海地獄、血の池地獄等なり

別府公園は別府の西方田の湯温泉の上方に在り明治四十年 今上陛下尙東宮にあ

らせられし時行幸ありし記念として開園せしものにして記念殿、御手植の松等あり

躑躅園は公園の西方に在り奇岩怪石間を點綴せる無數の躑躅花は開花の候美觀言語に絶せり私園なれども一般の觀覽を許す

山水園は躑躅園の西方に在り朝見川の清流を引き天然の美と人工の妙を併せ其風致稀に見る所なり是れ亦一私人の所有なるも一般の觀覽を許す

觀海寺温泉は別府より約一里あり宏壯なる温泉宿軒を列ぬ清湯山觀海寺と云ふ寺あり温泉の名蓋し之より出づ炭酸鹽類泉にして飲料に適す地は清湯山の中腹に在りて後方には鶴見嶽の峻峯あり前方は石垣原を隔てて別府灣を望み風光頗る佳なり

的が濱は波止場の北海門寺附近一帯の海濱にして往昔鎮西八郎爲朝の射術を試み

し所なりといふ

石垣原古戦場は別府の右方一帯の曠蕩たる平野なり慶長五年の秋大友義統と黒田孝高とが戦ひたる古戦場にして大友の忠臣吉弘統幸以下二百餘人の戦死せる所今此所に統幸の碑あり

白龜塚は龜川温泉場の海濱に在り別府驛より五分にて達す承和年間雌雄の白龜此地に出現し朝廷に獻ぜしに是れ瑞祥なりとて神龜と改元せられたりといふ塚は其靈を納めしものにして龜川の名之に依りて起る

鶴見嶽は海拔三千四百尺の峻峰にして休火山なれども八合目に噴烟する所あり別府温泉、泉源は此山脈より發すといふ山内には 景行天皇土蜘蛛御親征の蹟、火男火賣神社の祠跡等あり

四極山(高崎山とも云ふ)は大友氏の城址にして別府より電車に乗れば田の浦に下

車し城の口より登るを便とす山勢峻峭にして山頂には大友氏が威風を近國に振ひたる高崎城址あり眼下に別府灣の碧波を望み四顧の風光頗る佳なり

宇佐八幡宮

宇佐八幡宮は別府より汽車二時間にして宇佐驛に達す之より輕便鐵道に乗替へ八幡驛に下車すれば約一町にして大鳥居に到る宮は豊後國宇佐郡宇佐町龜山の頂上に鎮座ましまし官幣大社なり 孝謙天皇天平勝寶二年の創立(今より千百七十年前)にして一の御殿の祭神は八幡大神 應神天皇、二の御殿は三柱比賣大神、三の御殿は神功皇后なり以上三大神を併せて宇佐八幡三座と稱し奉る御手洗の右には神馬、下宮あり左には能樂堂あり眞直に登れば若宮神社あり更に進めば賽路の中程に一の鳥居と稱する古き鳥居あり初めて建設せし時代は詳ならざるも現存せ

る鳥居は今より三百十餘年前豊後日出の領主木下右衛門大夫延俊の改造する所に係り爾來破損する毎に木下家より修理する例にして其構造他に類例なきを以て宇佐の鳥居として名高し

神護景雲の昔妖僧道鏡の惡逆我國體を没却せんとせし危機に際し大忠臣和氣清麿が神勅に藉りし一言は長くも天津日嗣を天地と共に無窮に傳へ給ふことを警發したるものにして今神前に跪き靜に公の至誠忠烈を偲へば神威轉々尊嚴なるを覺ゆべし

大 分

大分は九州東海岸に於ける第一の都市にして人口四萬四千あり昔大友氏此所に據りて大に武威を振ひ九州東部の雄鎮たりしが豊臣秀吉の爲に亡されてより藩主の

代ること數回、維新前大給氏の城市たり

大分港は古來茵舊港と稱し有名なりしが近年百數十萬圓の巨資を投じて築港を完成し將來豊州、日豊、豊肥の三鐵道完成の期を俟ちて九州東海岸に於ける貨物集散の一大要港たらんとす現今は僅に大阪商船會社船舶の寄港するのみにして市の繁榮に資するに足らざるべし

豊州鐵道本線は大分、西大分の二驛あり大分、別府間には電車あり西大分驛に近く大分紡績株式會社あり

市内最も繁華なる所は竹町通にして大分銀行、農工銀行等あり

柞原八幡宮は豊後七社の隨一にして西大分驛より一里あり八幡村字柞原の二葉山と云ふ高丘上に在りて周圍十七間を有する二本の楠の大樹、葡萄牙樹、日暮の門等名高し

蓬萊公園は市の北邊海濱に在り園内に春日神社あるを以て春日公園とも云ふ此附近を春日浦或は神宮浦とも稱し白砂長汀遠く連り風光極めて佳し天文年間大友宗麟が葡萄牙船と貿易を行ひたる所なり

白雉城址は市の東邊に在り(千歳城とも稱す)慶長年間領主福原直高の築く所にして大分縣廳は此城内に在り

其他百合若大臣の塚、萬壽寺、岩堀の薬師、寶戒寺等の古蹟勝區あり又歩兵第七十二聯隊の兵營あり大分中學校あり師範學校あり

佐伯

佐伯は豊後國佐伯灣内番匠川の河口に在り市街なり舊毛利氏の城下にして背後の丘陵城山には鶴谷城址あり今開きて公園となす東麓には有名なる養賢寺あり

城址より番匠川の河口を見渡したる風景頗る佳く夏夕此河口に舟を浮べて納涼する者多し

徳山

徳山は毛利氏の分家毛利淡路守四萬石の舊城下にして山を負ひ海に臨み國道の要衝に位し別に一線出雲の松江に通ずる街道あり山陽線鐵道は東西に走り海運亦便にして中國航行の汽船日夜出入し商業頗る盛なり人口一萬三千、都濃郡役所、稅務署、區裁判所、警察署、中學校あり又海軍練炭所、大阪鐵板製造會社、鈴木亞鉛會社等の大工場ありて市の繁榮を維持す故陸軍大將伯爵兒玉源太郎氏の出身地にして町の爲に同伯の私費を以て設立せる兒玉文庫あり驛の東二十町には維新殉難七士の碑あり大正七年軍艦河内不慮の事變の際殉難者を火葬せる小島には記念

碑あり

鹿兒島

鹿兒島縣は東西南の三面海を以て圍繞し縣の中央部迄突入せる鹿兒島灣あり鹿兒島市は灣の南岸櫻島に面して一大都市を成し鹿兒島港は沖繩、臺灣等の航路の要衝なり文治二年源賴朝の庶長子島津忠久薩、隅、日三州の地頭職に任ぜられ爾來六百八十餘年の間子孫相傳へ鎮西の雄藩たり明治維新の際島津家二十八代の英主齊彬の下に西郷南洲、大久保利道等幾多の俊傑を出して王政復古の大業を成し二十九代忠義率先して領土を奉還し廢藩置縣と共に鹿兒島縣となり薩摩、大隅二箇國を管轄し今日に至れり

鹿兒島縣廳は山下町に在り縣會議事室、日本赤十字社支部、武德會支部は其構内に、地方裁判所、市役所、郵便局は其附近に在り

西本願寺別院は縣廳の前方東千石町に在り境域三千五百坪、市内第一の大伽藍なり

照國神社は島津家二十八代の英主齊彬を祀る所にして市役所に近き城山の麓に在る別格官幣社なり宏壯なる祠殿は幽邃閑雅なる四邊の境域と相應じ頗る森嚴を極め賽者自ら襟を正すの感あり戊辰の役の戦死者を祀れる社は本社の方左方に在り探勝園は園内に島津久光、齊彬、忠義三公の銅像あり大正三年工を起し同五年成る其技巧壯大なり

鹿兒島城址は舊島津家の居城たりし所にして現今の縣廳を中心とし山の手に沿ひたる一帯の地域なり今の第七高等學校造士館は本丸の趾なり

城山公園は市の背後なる丘陵にして城山の名は西郷南洲終焉の地として人口に膾



街 及 櫻 島

英艦を砲撃したりといふ其大砲今尙城山公園に在り

岩崎山洞窟は西南の役薩軍城山を死守するこ
と二十餘日、其間西郷南洲の起臥し時に軍議
を謀り時に圍碁に親みしと傳ふる洞窟にして
岩崎谷山峽に在り

西郷南洲終焉の地は岩崎谷の入口に在り碑は
石垣を繞らして其中に之を建つ裏面の碑文を
讀めば當年の悲愴を回顧して黯然たらざる者
なし

西郷南洲の木像及墓は豎馬場町の一端なる淨



鹿 兒 島 市

灸する所なり明治四十三年十一月 今上陛下
行幸の際の御座所、御手植の樟あり丘上より
市街を望めば全市一眸の中に在りて風光頗る
佳なり

櫻島は城山より仰げば天空を摩する靈峯なり
大正三年一月爆發の慘禍ありし以來熔岩降灰
の埋むる所となり其風光を損したるは遺憾な
るも爆發と共に櫻島の名は世界に知らるるに
至れり櫻島大根、櫻島蜜柑の特産物あり

天保山は市街を貫流する甲突川の河口に在り
幕末英國と戰端を開きし時此山に大砲を据え

光寺に在り先づ石段を登れば左方に木像の安置されたるを見る尙上段に進めば廳て其墓前に出づ墓は南洲以下西南の役に陣歿せる桐野、篠原、村田等諸士の遺骸を葬りしものにして累々と立ち並びたる墓畔に香煙の絶ゆることなし南洲堂は其傍に在り堂前に社務所ありて多く遺物を藏す此附近眺望に富み風光見るべし俊寛の碑は市の西南方なる御着屋通に在り今は商業の中心地として頗る繁華を極むるも古往此附近一帯の地を俊寛堀と稱し甲突川の河口に當りて大なる池ありしといふ昔俊寛僧都平家の怒に觸れ鬼界が島に流されし時此河口より乗船せしなり碑は近年建造せるものにして即ち其故事を刻めり西郷南洲誕生の地は加治屋町に在り大久保甲東誕生の地は猫葉小路に在り兩地相距ること約二町

小濱温泉

小濱温泉は島原半島に在りて舊湯、新湯の二に分る舊湯は千々岩灣に面せる海岸に在りて宏壯なる旅館軒を並べ三千の浴客を收容することを得頗る殷賑を極む新湯は半島の中央に聳ゆる温泉岳西方の中腹海拔一千八百尺の地絹笠矢岳の中間に在り此山往古は一體の山なりしが度々噴火の結果噴火口は取擡げられ終に山體は東西に別れ其火口原には温泉を残すに至れり此邊一帯を温泉公園と稱し綠樹繁茂し幽邃の閑地にして小濱より三里あり馬車、自動車の便あり明治十五年頃より漸次發展し夏季香港、新嘉坡、麻仁刺、上海、青島方面より來る内外の浴客甚だ多し公園の中央には長崎縣經營の俱樂部ありて外人に適する遊戯場の設備あり小濱より登ること二里五町にして札の原と稱する平原に達す人家十戸あり舊藩主

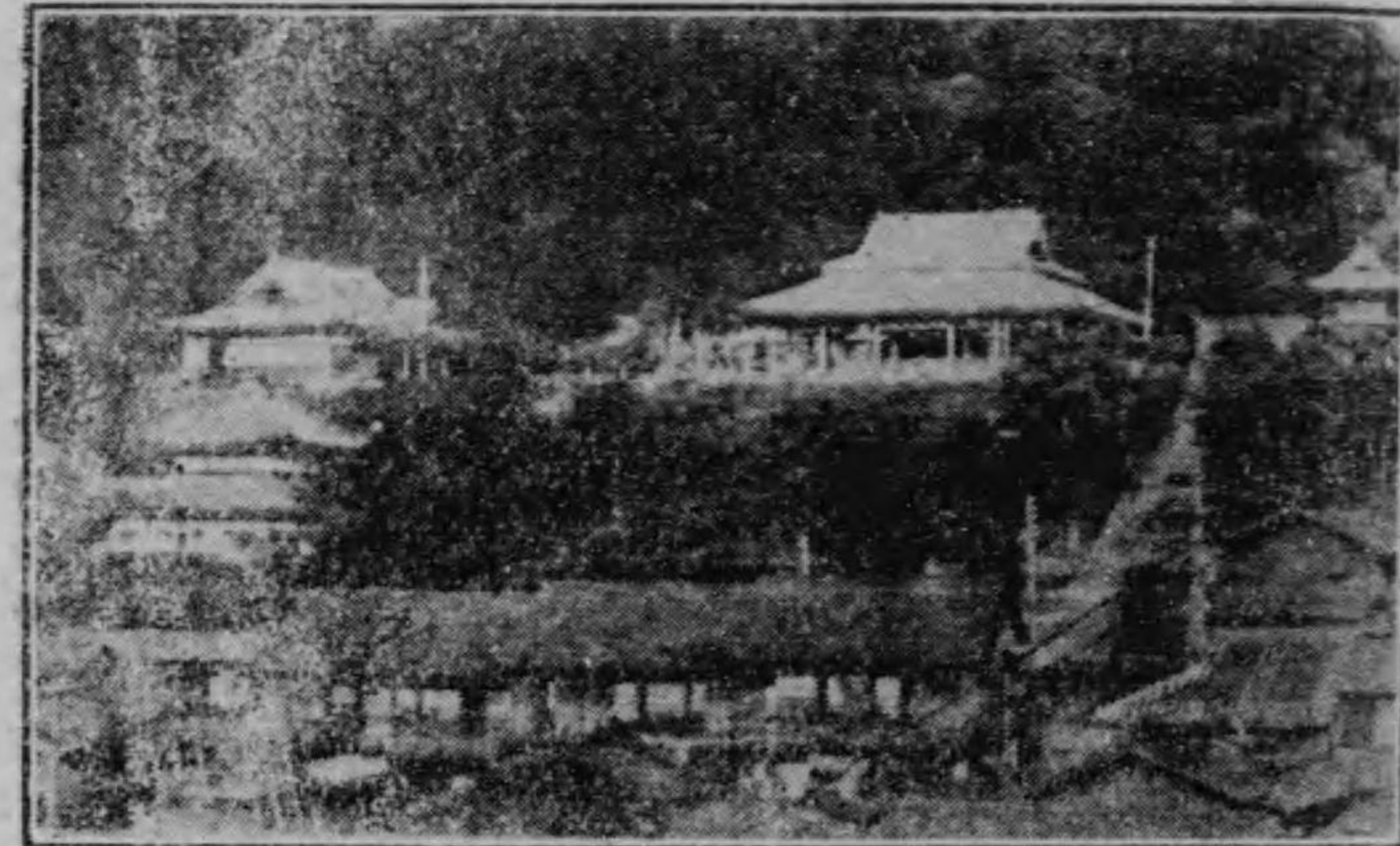
の制札ありし所なるを以て此名ありといふ此地廣表約二萬八千坪、鳥羽天皇の頃大乘院の盛なりし時三百坊を置かれし遺蹟なり今尙殘壞せる大鳥居の一部ありて往時の盛なりし面影を偲ばしむ

相笠矢岳の西五町海拔六百尺の地に廣さ二萬餘坪の湖あり周圍綠樹鬱蒼として三伏の盛夏も炎熱を知らず風光佳絶なり湖畔に白雲牧場あり内外の浴客來りて遊ぶ者多し

小濱、西海岸突出せる丘陵は舊有馬氏の本城址なり又東海岸千々岩には城山と稱する有馬氏の枝城址あり此地は軍神橋中佐の誕生地にして銅像あり

長崎

長崎は風光の美、氣候の温、物價の廉を以て外人に世界の樂土なりと激賞せらる



長崎 清 水 寺

る地なり此地久しく外國交通の唯一門戸にして泰西の文物消息皆此地を經由して東漸したりき故に外人の記述此地に及ぶもの多く日本を知る者此港を知らざるはなく本邦人にして維新前に於て外國の事情を知らんとする者は皆長崎に遊ぶを常とせり維新の初め長崎縣廳を置き明治二十二年市制を施さ今や人口十八萬、九州第一位本邦第七位の都會たり官衙には縣廳、控訴院、地裁、裁判所、税關、港務所、檢疫所、要塞司令部、市役所、稅務署、警察署等あり又三菱造船所、九州汽船會社、

米穀取引所、農工銀行等ありて日本郵船會社、大阪商船會社、三菱會社、三井物産會社、三井銀行、正金銀行、露清銀行、日本銀行等の各支店及外國銀行の代理店と共に市の壯觀を添ふ物産には鼈甲細工、漆器、針、線香、刺繡、長崎カステラ等あり市内最も繁華なる所は濱町、鍛冶町、向町、石灰町等にして外國領事館及商館は新地、出島大浦等に在り

佐世保

佐世保は往時一寒村に過ぎざりしが明治十八年海軍鎮守府を置かれてより長足の進歩をなし明治三十五年には市制を施き今や人口十萬餘を有し九州第二の大都會となれり尙新開の市街は絶えず後方の高地に發展しつつあり近郊遊覽すべき所多し



佐世保海兵團

福石の觀音は海軍橋より約二十五町なり無數の觀音岩間に安置しありて四時參詣者絶ゆることなし
 目鏡岩は田島岳の北に在り宮田町より行くを便とす岩は其形恰も目鏡の如くにして右方に弘法大師の祠あり岩上よりの眺望佳絶なり
 相の浦は海軍橋より約二里なり無數の小嶼翠松を挟みて碧波に影を映す所風光頗る佳し相の浦富士、山海公園等遊賞すべきもの多し
 烏帽子岳は登臨眺望に富み海兵の常に健脚を練る所なり

鎮海灣

鎮海灣は地勢最も秀て之を東洋第一の海鎮と稱するも強ち誇大の言に非ず遠く神功皇后の外征に始まり降つて弘安、文祿、慶長の諸戦役より近くは日清、日露の役に及び東洋史上夙に世界に知られたる所なり明治三十年此地に防備隊を置かれてより内地人の移住する者多く今や繁華なる市街を成すに至れり

橋通の中間四つ辻には周圍二丈に餘る榎の大木あり枝葉繁茂し三伏の炎暑に當り行人の休涼する者少からず傍らに防備隊設置記念碑あり東郷大將の筆に係る碑文は時の防備隊司令官宮岡直記少將の撰なり

碑の東三町にして甲山公園あり山頂には明治天皇遙拜式記念碑あり警察署、水交支社、鎮海小學校、病院官舎等散在し附近には無數の桃、櫻を植ゑ春季の眺望頗

る佳し山の中腹には鎮海神社あり大正六年分靈式を行ひ 天照大神を祀る

防備隊背後の山には文祿、慶長の役九鬼義隆、藤堂高虎、脇坂安治等水師軍の上陸して築城せりと云ふ城址あり其他近傍海岸には敵水軍の英將李舜臣の古蹟多し

杵 築

杵築は大社の爲に繁榮せる山陰に於ける有名なる神都にして人口一萬あり參拜者の宿るべき旅館多し

大社は鳥根縣簸川郡杵築町八雲山の麓に在り祭神は神代の昔日本の統治者たりし大國主命にして創建實に神代に在り 天照大神の勅を奉じ諸神の經營せられたるものにして我國最古の神社なり杵築の海岸より約十町杵築町を通りて右に一の鳥居を見左折して坂を下れば被橋あり橋を渡れば賽路の兩側に老松枝を連ね二の鳥

居を過ぎ更に碧銅の大鳥居を入れれば即ち神苑にして拜殿、社務所、八足門、會所、樓門、神饌所、齋火殿、觀祭樓及攝社等並び立てり八足門の内二重に玉垣を繞せるは本殿にして天日隅宮と稱し奉る現在の社殿は明治七年造營せられたるものに其結構我國最新の建築法に依り古來の他の社殿と其趣を異にする所あるも頗る莊嚴なり入口の扉を中央正面より右横に設けられたるは大國主命の穩棲當時の遺風なりといふ樓門正面楣間の葡萄に栗鼠の浮彫は左甚五郎の作にして日光の眠り猫と共に我國彫刻の双壁と稱せらる觀祭樓には寶物多し中にも國寶 高倉天皇御寄附螺鈿秋野蒔繪櫛笥、豐太閣の佩刀 銘光忠、二尺三寸等最も珍とすべし其他 稻田姫の塑像、古文書等あり社境は後丘八雲山と右龜山、左鶴山とに圍まれ長松老杉空を蔽ひて俗塵を遮り神威尊嚴にして賽者覺えず襟を正すべし神職は 天照大神の天穗日命を遣して仕へしめられしより其後裔長く祭事を掌り千家と稱し今

尙宮司たり

杵築の海岸は稻佐の濱と稱し武甕槌命と經津主命とが 天照大神の勅を奉じて此國に下り大國主命に國讓の諾否を迫り給ひし舊蹟にして一帶の砂汀彎曲し眺望頗る佳し

大社驛前には大梶七兵衛の旌功碑あり七兵衛は元祿年間の人にして防風防砂の爲に松林を作り水利の便を開き荒廢の地を良田となしたる篤志家なり此附近一帶に風光佳麗の松林多きは蓋し此人の賜なりといふ

美保の關

美保の關は島根半島の東南に位し三面山に圍まれたる風光明媚の地にして又美保港と稱す

美保神社は大國主命の長子事代主命及其妃美保姫を祀れる國幣中社なり神代の昔皇祖天照大神皇國の基を定め給はんとて御使を大國主命に遣し給ひし時大國主命は其旨を當地に在しける事代主命に傳へて謀り給ひしに事代主命は皇祖の大詔を畏みて父神に勤めて領土を奉還せしめ給ひきはに於て建國の基礎大に固まれり事代主命は青葉垣を海中に作りて退去し恭順の意を表して我國體を護り給へりといふ美保港の棧橋より左折すれば半町にして一の鳥居あり町の西南老松森然たる中に海に面して建てられたる祠宇森嚴として出雲大社に亞ぐの舊社なり毎年四月七日青柴垣の神事及十二月三日諸手船の神事は此神の故事に依るといふ承久の役 後鳥羽天皇隱岐御遷幸の際の御製に曰く「知るらめやうさめを美保の浦千鳥鳴くくしぼる袖のけしさを」

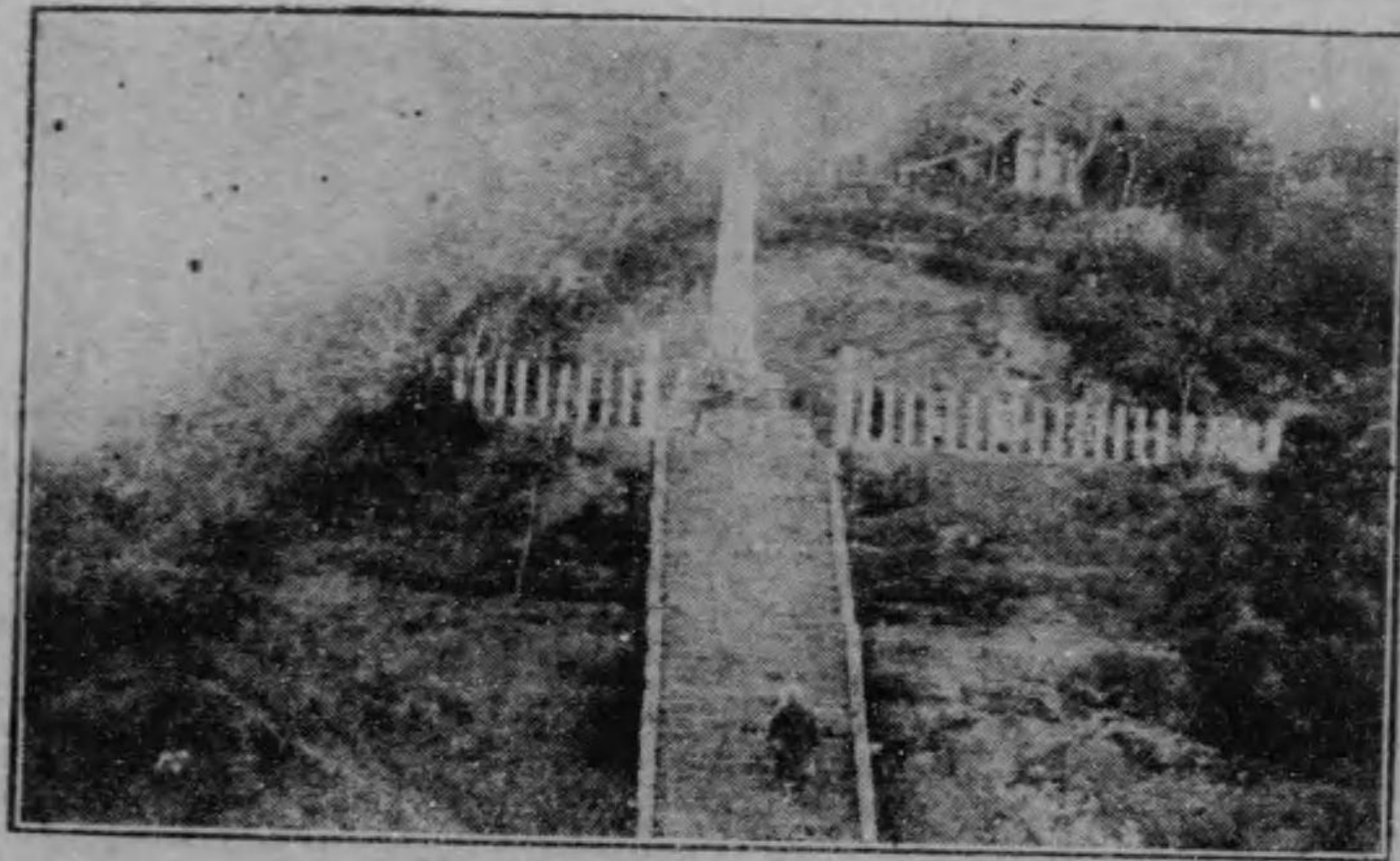
元弘の昔 後醍醐天皇隱岐御遷幸の際も暫時此地に風待ちをせさせられしと傳ふ

舞 鶴

舞鶴は日本海第一の港灣にして東舞鶴には海軍鎮守府あり新舞鶴驛を置く西灣の南端なる市街を西舞鶴(舊稱田邊)と稱し牧野豊後守三萬五千石の舊城下たり東西舞鶴の間は陸上一里餘、中間に榎峠あり隧道を通じ鐵道は兩市街を連絡す東舞鶴は軍港の發展と共に開けたる町にして人口日々に増加す市街の名稱も軍艦の名に因みて吉野通、笠置通、大和通等と名づく

西舞鶴は人口一萬に餘り加佐郡役所、警察署等あり鐵道院聯絡汽船は丹後宮津、若狹小濱等へ往復し大阪、京都よりは各直通列車を出し毎日數回往復するを以て地の僻在せるに拘はらず海陸交通の便甚だ備れり

西舞鶴の田邊城址は今開きて公園とし心種園と稱す細川幽齋古今傳授の松あり



舞鶴忠魂碑

青葉山は新舞鶴驛より約二里、加佐郡松尾村に在りて松尾寺と稱する寺あり西國二十九番の札所にして馬頭觀音を安置す奥の院は頂上にありて登臨眺望に富む

海舞鶴驛より鐵道院聯絡汽船に乗らば左顧右眴舞鶴灣内の風光を眺めつつ將に日本海に出でんとして又與謝の海に入る時突如眼前に蒼松一帶概ね枝梢を齊うし碧水の上一字を畫けるを見ん是れ名にし負ふ天の橋立なり

天の橋立

天の橋立は松島、巖島と併せて日本三景と稱せらる萬松一路海に浮ぶこと約二十八町、春霞秋月夏雨冬雪一として其景を粧はざるなく二十四節時に隨ひ各其美を異にし四季晝夜何時見ても人心を飽かさらしむ而して天橋の景を賞せんとせば先づ宮津より切戸に登るべし此所に文珠閣あり遙に成相寺に對して畫中の景を添ふ崇神天皇の御宇 天照大神の暫時鎮座ましましし與謝の宮は此境域なるべしといふ附近茶舗酒樓多く遊興盡くる時を知らず真に『二度と行くまい丹後の宮津縞の財布が空になる』てふ俗謠に負かざるべし更に進んで文珠の渡を渡れば即ち天橋の砂洲にして松林中に橋立神社あり祠畔磯清水と云ふ清冽なる靈泉あり岩見重太郎が父の仇を討ちしは此邊なりと傳ふる古蹟あり 今上陛下尙東宮にましましし

時行啓の記念亭あり御手植の松あり是れより天橋の幅次第に狭く松樹亦疎となり江尻に至りて全く盡く

若し夫れ天橋縦一文字の景を賞せんと欲せば成相山あり横一文字の景を見んと欲せば楞峠あり江尻より府中なる籠神社に詣てて成相山に登らば中腹に成相寺あり千手観音を安置す昔源頼光が大江山の鬼退治に向ふ時詣てて祈願したりと傳ふる有名の古刹なり試みに賽路の傍ら傘松の陰に立ち美景を背にして身を屈め股間より之を窺へば一里の翠松波鏡に映じ與謝の入江を劃する所水中天あり天上水あり上なるは海か下なるは天か茫として判別に苦むべし「天の橋立股覗き」は實に天下無雙の奇觀なり寺の奥なる慈眼寺も亦塵外の靈境なり要するに天橋は一里の松汀を以て與謝の海を兩斷したるものにして東を宮津灣と云ひ西を内海又は岩瀧港と云ふ内海は海底淺くして小舟を浮ぶべきのみ

青森及大港

青森は東北本線鐵道の終點にして又奥羽線鐵道の終點なり地勢青森灣頭に位し北海道に渡航する者必ず此地を經由すべく港としては實に東北第一位を占む日本郵船會社及大阪商船會社の汽船竝に鐵道院の連絡船は函館、室蘭等と相結び交通頻繁、商業又盛んなり人口三萬五千餘あり歩兵第五聯隊の兵營、裁判所、市役所、青森縣廳等の諸官衙あり

市内繁華なる所は大町通、濱町通なり

安方町驛より五、六町にして縣社善知鳥神社あり市柞島姫命、多羅姫命を祀り境内廣濶なり

合浦公園は浦町驛より二十町あり園内には招魂社あり前面に澎湃たる蒼海を望み

眺望佳絶なり

○青森灣の北岸には大港あり海軍要港にして防備隊あり

函 館

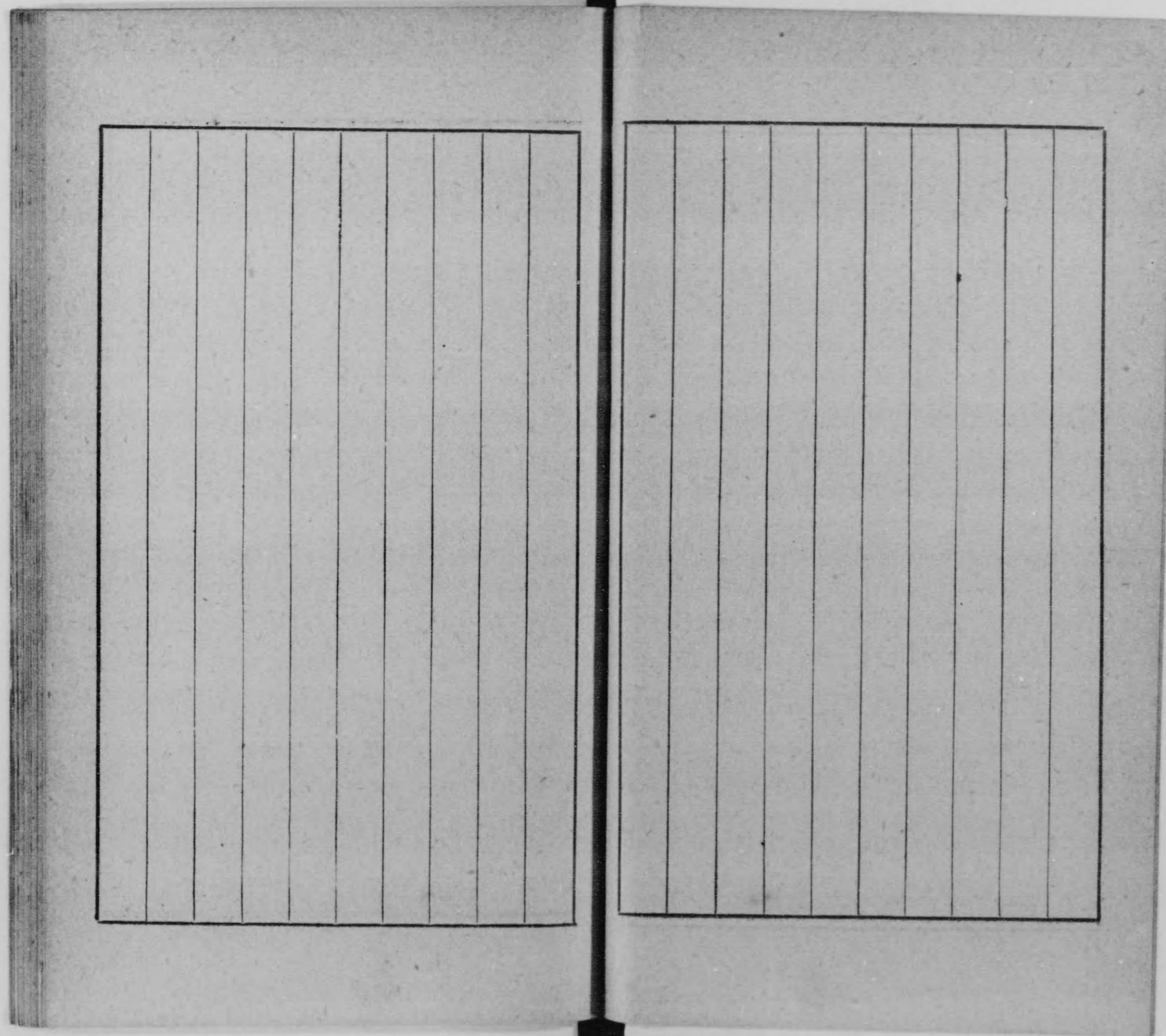
函館は北海道の西端に位し函館灣の南東隅に在りて北海道第一の良港なり安政六年六月開放して貿易港となし今や人口九萬餘を有す市内電車あり北海物産集散の要津にして商業頗る盛んなり函館支應、測候所、海事局、税關等の諸官衙並に日本銀行、三井銀行、日本郵船會社、大阪商船會社等の各支店あり
函館公園は頗る佳致に富む又大沼には大沼公園あり眺望佳絶なり
區外に五稜郭あり維新の際海將榎本武揚等の立籠りたる有名なる城址にして今開きて區の公園となす

室 蘭

室蘭は往時港の南西岸に沿ひて市街を形成せしが明治三十九年母戀に日本製鋼所の建設せらるるや人口、貿易忽然として激増し佛阪に隣りて母戀市街は新設せられ其他百般の舊態を改め今や人口三萬五千、室蘭支應の所在地にして頗る殷賑を極む

市内見るべきものは日本製鋼會社、鐵道院高架棧橋なり棧橋は市街の東側より港内中央部に向ひて伸出し黒色にして高さ七十呎、長さ二鏈、幅二十嗎あり載炭專用のものとする

鐵道は當地を起點とし追分に至りて夕張支線を分岐し岩見澤に至りて更に三方に分る即ち右すれば幾春別、幌内支線となり北すれば旭川を経て釧路に連絡し西す



384
193

12.8. 2

終